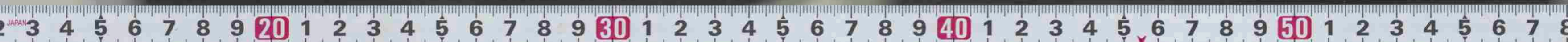


御書 久野字戸張ニ御書下云傳へたり所アリ明治  
 廿年頃奈坂をこし錫杖変り鉄及び錦ノ代衣ラキモノ  
 出デタリト何人ノ書ニナシカ知ルニ由ナシ  
 長善寺  
 大存深程ニアリし寺院ナリ開基ハ詳ナラズモ無量壽院ヲ  
 先九ツト云傳フ今ヲ去ルテ五十餘年前焼失し其後地ヲ  
 更ハ建スルニコトニ回ナカシ檀徒サナリ財産豊ナラズ維持  
 困難ヲ来シ社寺合併ノ法令ノ出テニテ好機トシ明治  
 四十年九月十日合併ノ許ラ得無量壽院ニ合併シ  
 タリ

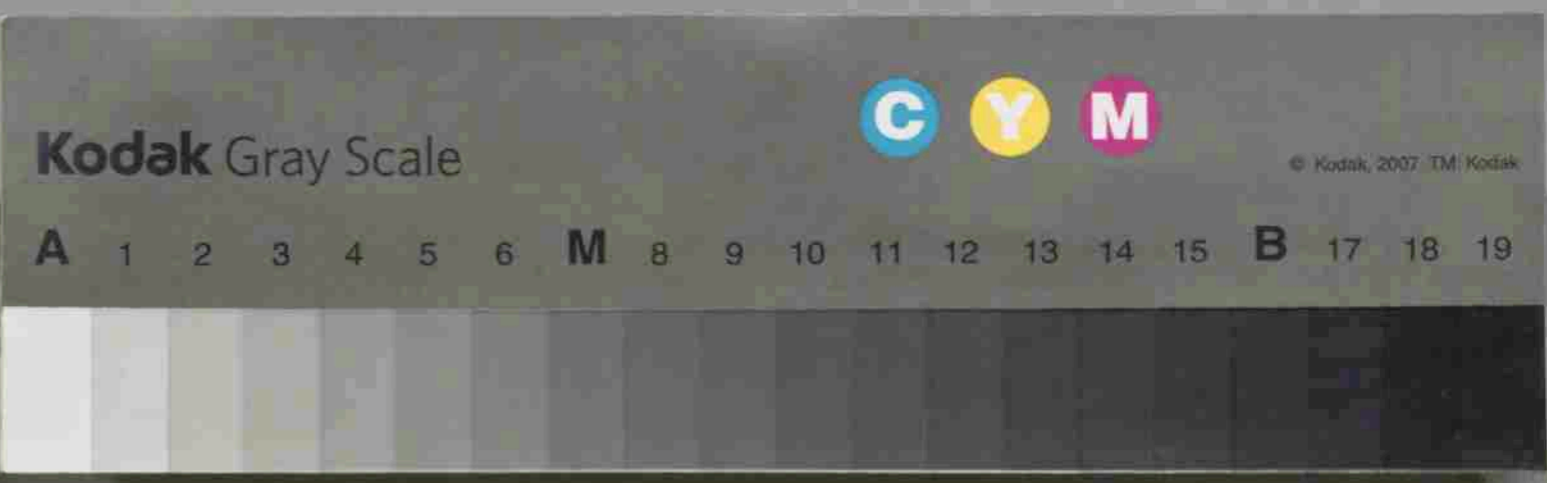
清水縣上郡賀郡清洲第一小學校

御書 久野字戸張ニ御書下云傳へたり所アリ明治  
 廿年頃奈坂をこし錫杖変り鉄及び錦ノ代衣ラキモノ  
 出デタリト何人ノ書ニナシカ知ルニ由ナシ  
 長善寺  
 大存深程ニアリし寺院ナリ開基ハ詳ナラズモ無量壽院ヲ  
 先九ツト云傳フ今ヲ去ルテ五十餘年前焼失し其後地ヲ  
 更ハ建スルニコトニ回ナカシ檀徒サナリ財産豊ナラズ維持  
 困難ヲ来シ社寺合併ノ法令ノ出テニテ好機トシ明治  
 四十年九月十日合併ノ許ラ得無量壽院ニ合併シ  
 タリ

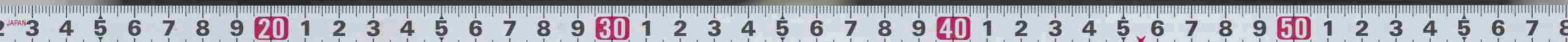


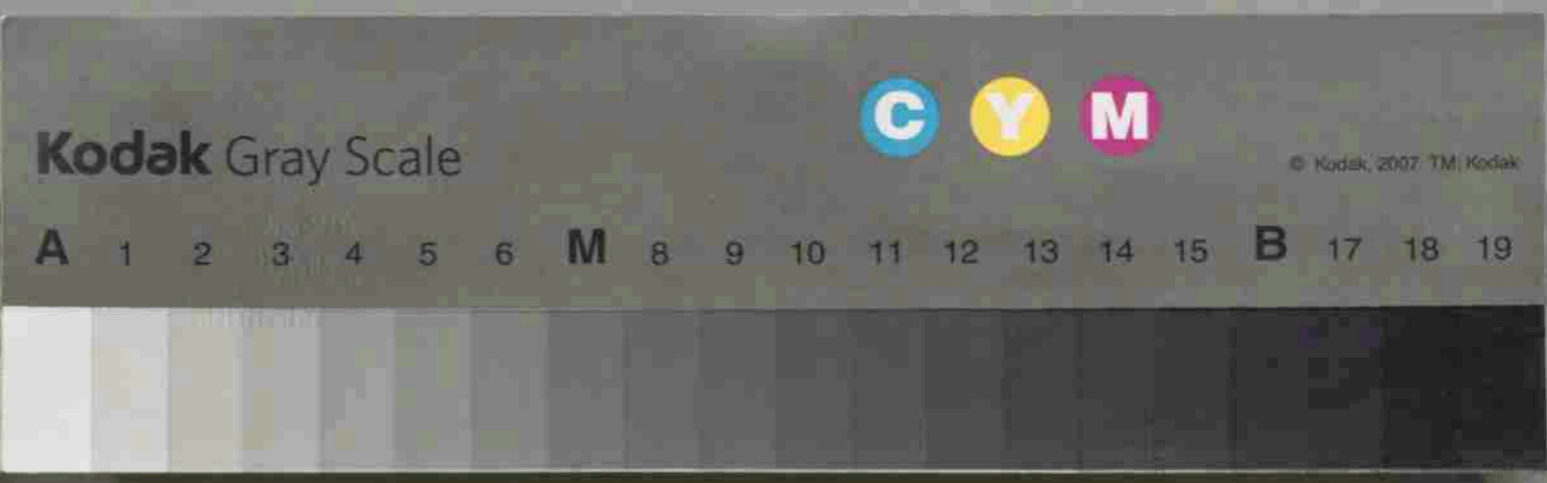






32  
 貫通告 明治六年 學制頒布ニヨリ 修業ノ初立學  
 舎ヲ轉用シテ 用棟ノ一 大宇邑 牙三十八番 中宇邑 内牙三  
 番 小學貫通告ト云フ 久野村ニ於テル 小學校ノ 嚆矢ナリ  
 (中宇邑トハ 久野下和尾 中和尾 上和尾 柏木 三栗野 中栗  
 野 入栗野ノ 各村連合ノ 學区) 明治六年 四月十五日 同校  
 ニ同年 五月五日 都賀郡 全生士族 杉下 脩二郎 權少教  
 頭トシテ 赴任 始業ノ 式ヲ奉グ 明治十一年 中書 書事 兼  
 初百十五番 小學ト改正 各十三番 初二十五番 小學ト改正  
 各十五番 初二十三番 小學ト改正 各十五番 五月 初棉校  
 隘 付 糖 業 全 年 土 月 久 野 學 校 卜 改 移 也 リ 此 記 也  
 明治十八年三月 初 三 日 一 時 三 聖 野 村 卜 倉 火 列 凡 一 為 一  
 初 百 十 五 番 小 學 卜 改 正 各 十 三 番 初 二 十 五 番 小 學 卜 改 正  
 各 十 五 番 初 二 十 三 番 小 學 卜 改 正 各 十 五 番 五 月 初 棉 校  
 隘 付 糖 業 全 年 土 月 久 野 學 校 卜 改 移 也 リ 此 記 也  
 明治十八年三月 初 三 日 一 時 三 聖 野 村 卜 倉 火 列 凡 一 為 一

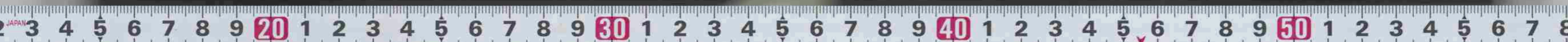


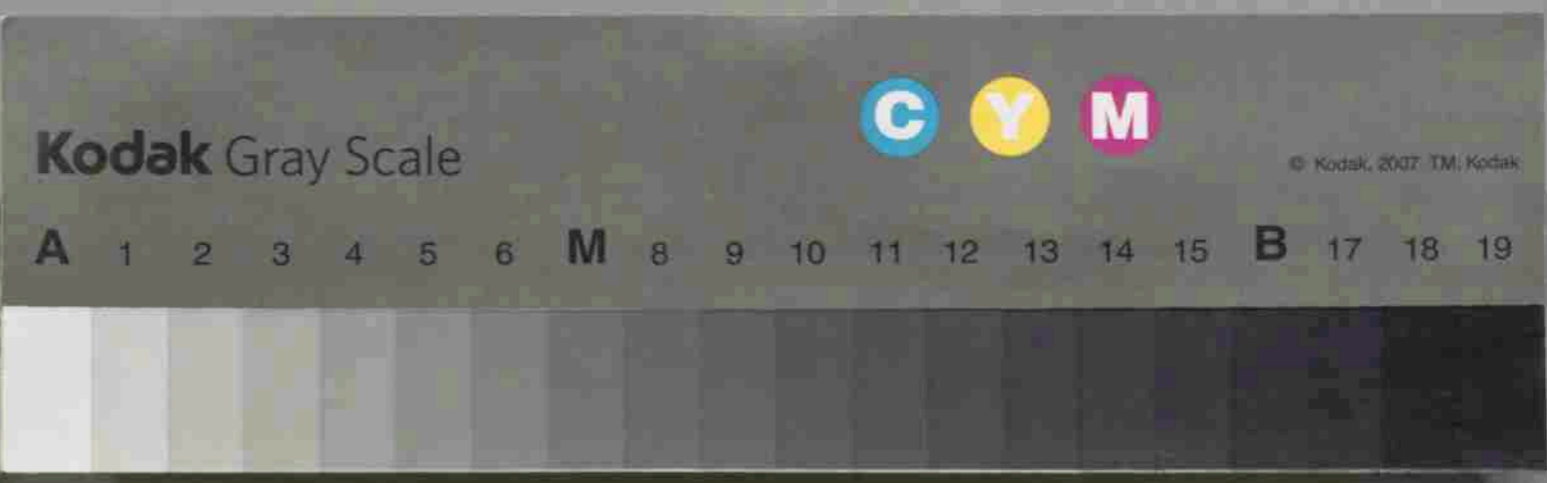


栃木縣上郡賀郡清洲第一小學校

清洲第一小學校

久野村に延焼百拾餘戸焼失此時校長王其福罹り  
 烏有日歸り是に於て有志者栗、我全う醜集し小  
 松神社に傍有地三間口坊間舉行冬向、假校舎を  
 築造し今年五月吉日より開校又、今年七月廿七  
 音字色ト改正斯く明内二十年十月十日津野村  
 俣津津村と境界ト移後多り、進管久是に中十故在  
 一校舎あり三月至りテ初七番、<sup>幸也</sup>津程久野  
 北幸田、三校ア合併シテ津程、異常小校ト名移ら凡  
 我ニ北幸田ハ男議ヲ主張シ已ラテ得久分校トナリ津程久野  
 二校合併シ深程子帯小校ト名移リ明内二十年拾月同日校  
 舎リ



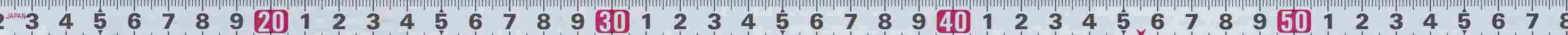


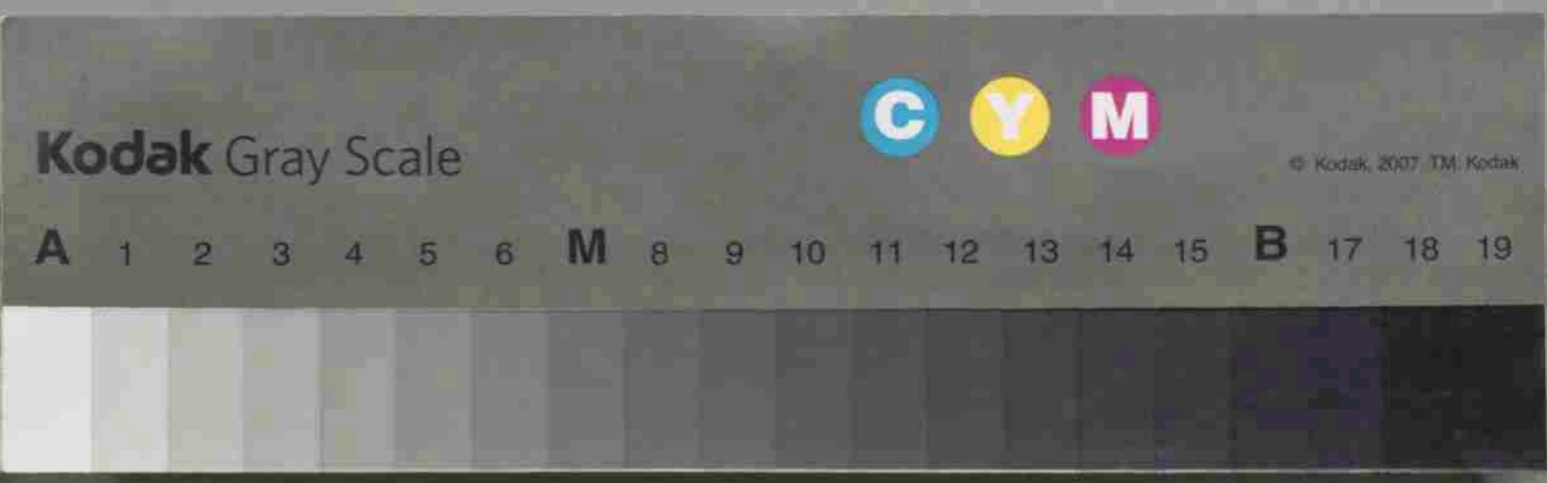
三深程小学校時代 明治六年十月二十日深程無量壽院ヲ  
 兩校用ニテ同校シ敷場トナシタリ  
 合併以後ノ学校 久野深程ニ於ケルニ校ハ明治二十年三月分  
 七番町ニ廣止ト共ニ合併シ漸整ヘ兩村境界ニ校舎多ク并ニ築シ  
 今年十月開校シ深程昇寺ノ校舎ニ在リテ清洲ノ一頁  
 希ニ校ト改移セリ 高等科ハ明治三十二年四月ノ創立ニテ清  
 洲ノ一頁寺ノ校舎ニ在リテ用ニセリ 明治三十八年七月開校  
 校ニ大變行ニ同ノ敷場ヲ建設シテ長寺科ト併置シ清洲ノ  
 高等科ト改移セリ

明治三十二年四月ノ創立ニテ清洲ノ一頁  
 希ニ校ト改移セリ 高等科ハ明治三十二年四月ノ創立ニテ清  
 洲ノ一頁寺ノ校舎ニ在リテ用ニセリ 明治三十八年七月開校  
 校ニ大變行ニ同ノ敷場ヲ建設シテ長寺科ト併置シ清洲ノ  
 高等科ト改移セリ

明治三十二年四月ノ創立ニテ清洲ノ一頁  
 希ニ校ト改移セリ 高等科ハ明治三十二年四月ノ創立ニテ清  
 洲ノ一頁寺ノ校舎ニ在リテ用ニセリ 明治三十八年七月開校  
 校ニ大變行ニ同ノ敷場ヲ建設シテ長寺科ト併置シ清洲ノ  
 高等科ト改移セリ

栃木縣上野賀郡清洲第一小學校

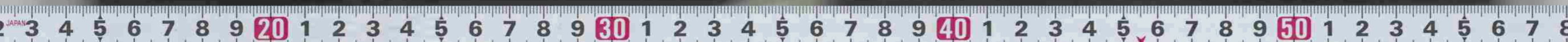


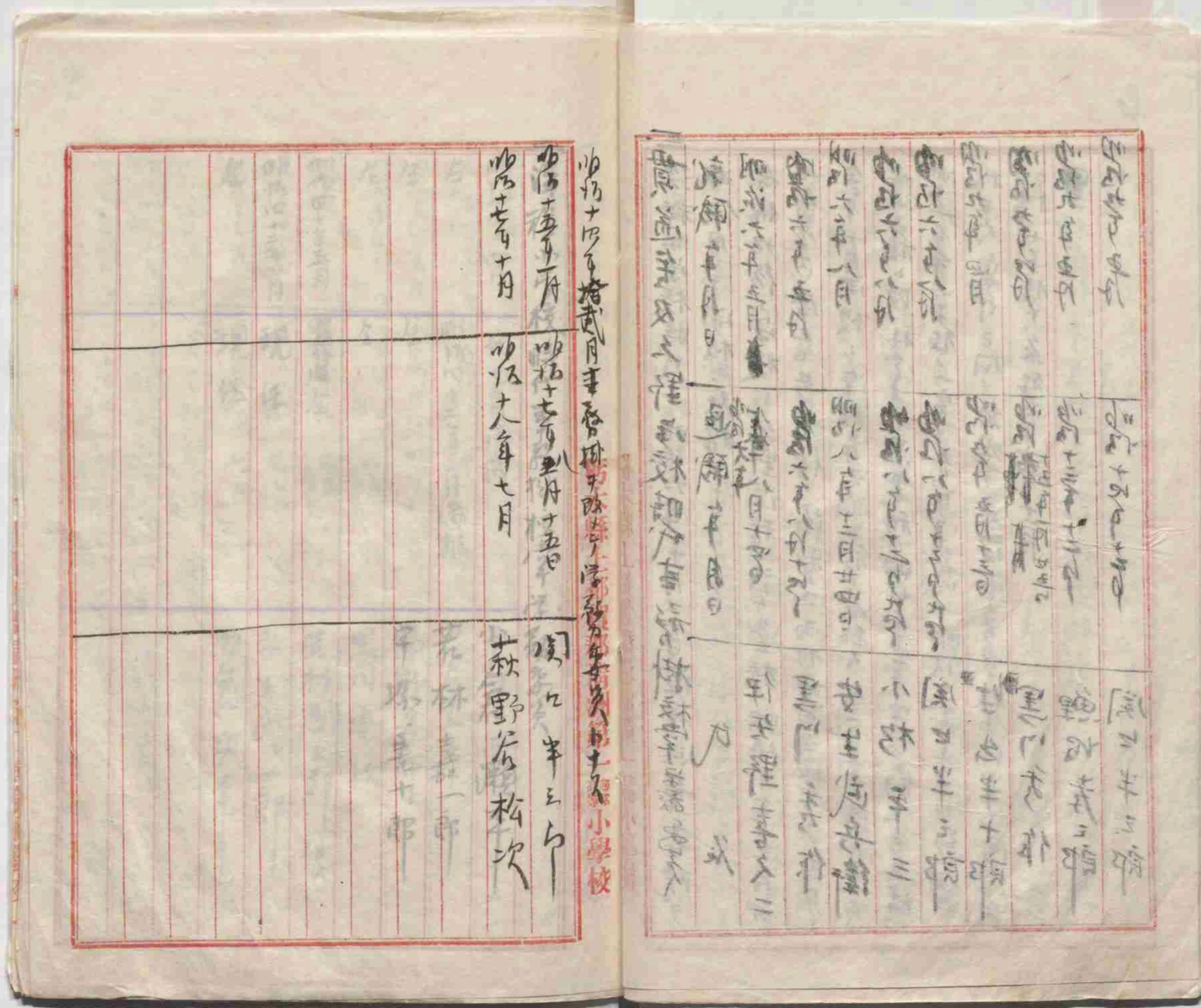
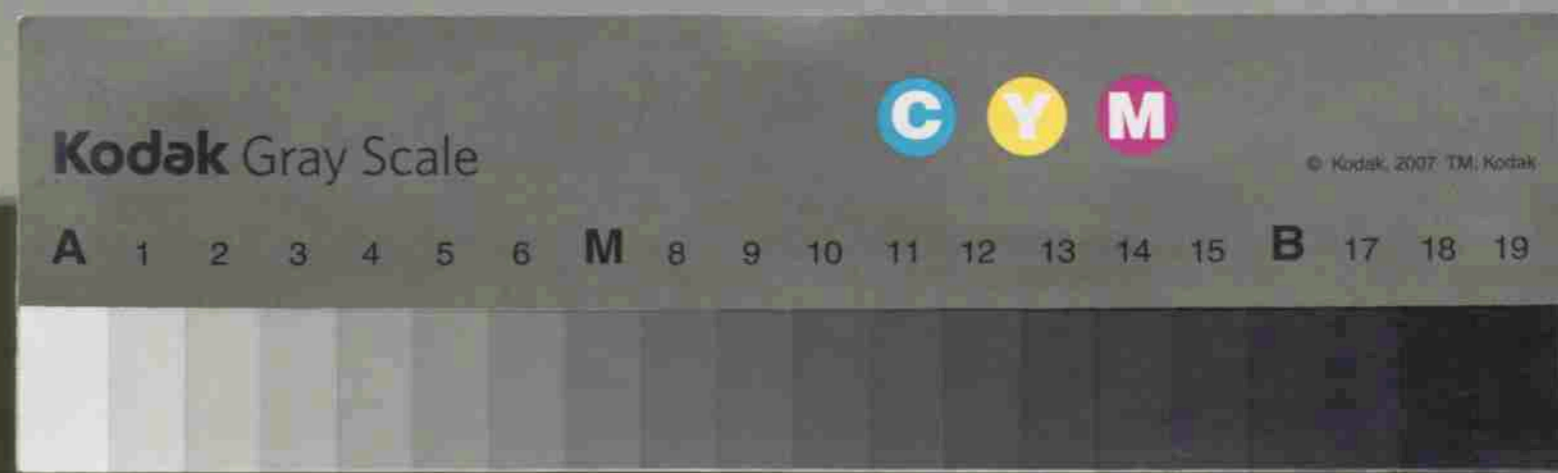


栃木縣上都賀郡清洲第一縣小學校

貫道年及久野 就職年月日	退職年月日	氏名
明治六年五月	明治八年十月	伊矢野喜久二
明治六年八月	明治八年二月廿四日	黒川秀作
明治六年八月	明治八年三月廿九日	安生武兵衛
明治六年八月	明治八年三月廿九日	小杉平三
明治九年四月	明治九年五月十三日	関口半三郎
明治九年五月	明治九年五月十三日	生出半十郎
明治九年五月	明治九年五月十三日	黒川秀作
明治九年五月	明治九年五月十三日	鯉沼孝三郎
明治九年五月	明治九年五月十三日	関口半三郎

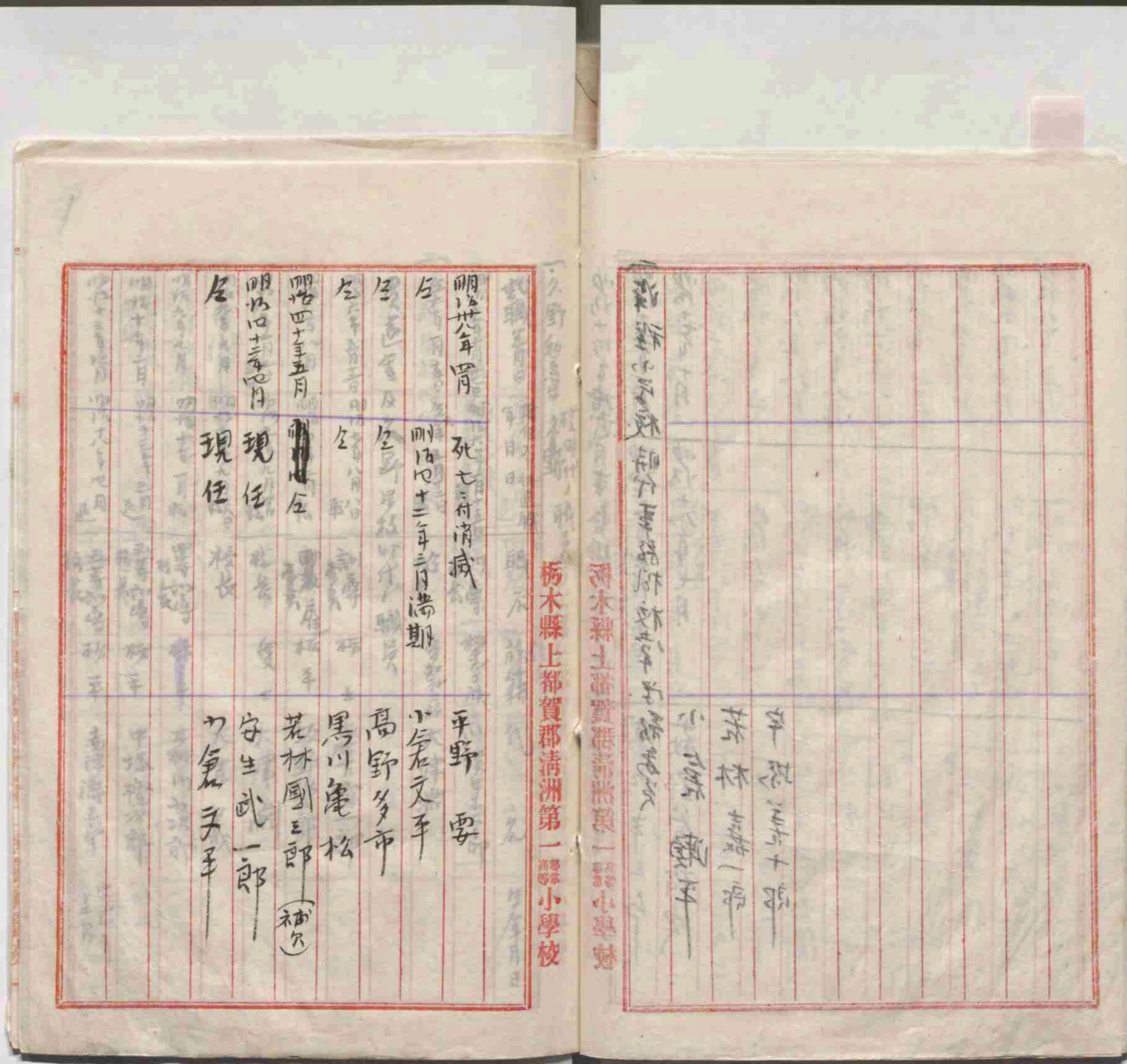
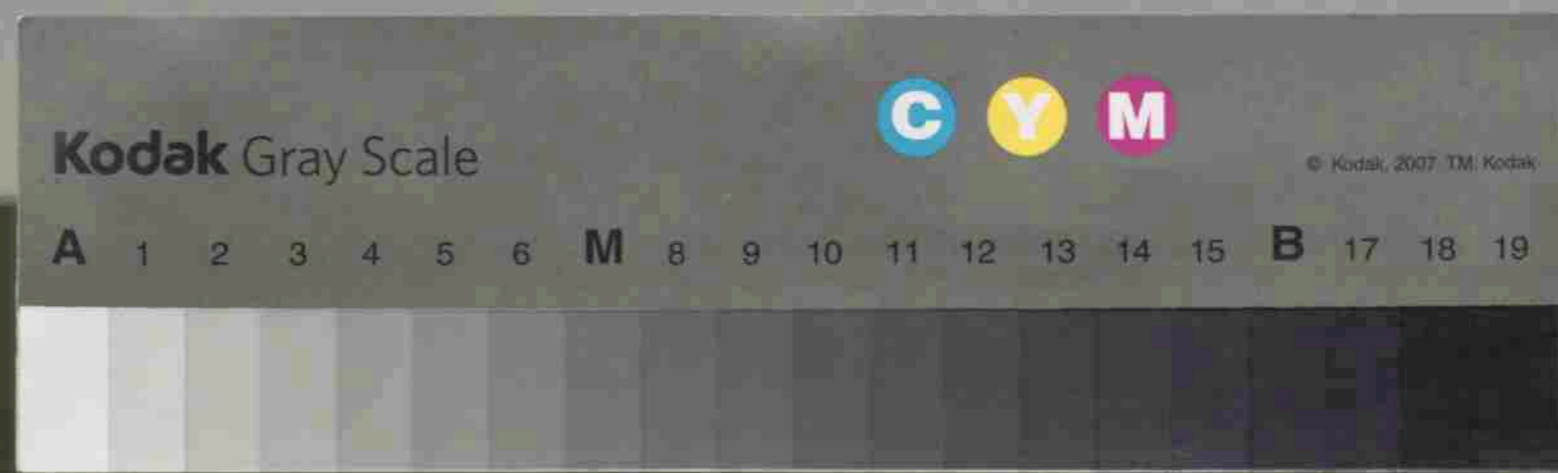
三  
...





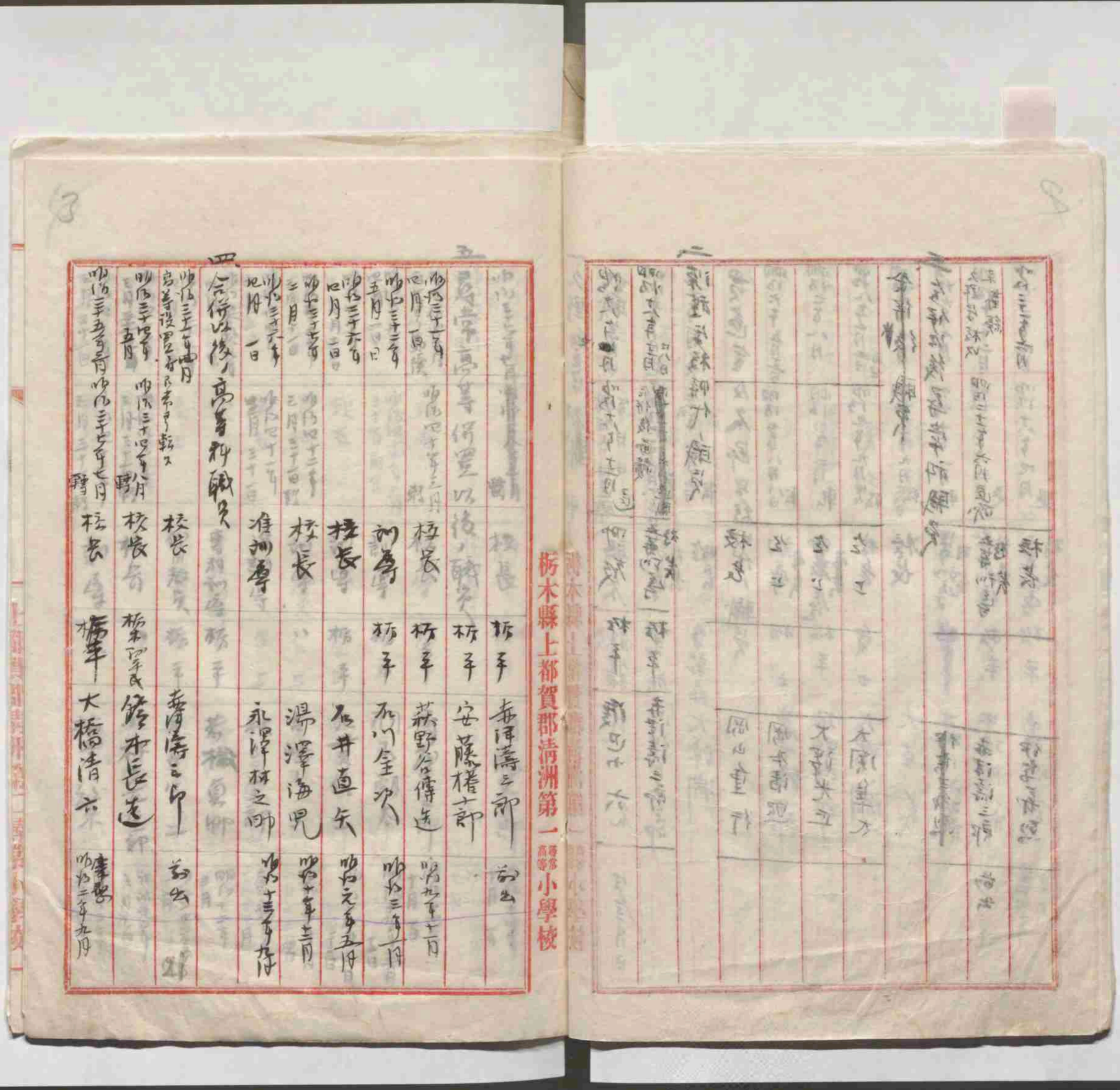
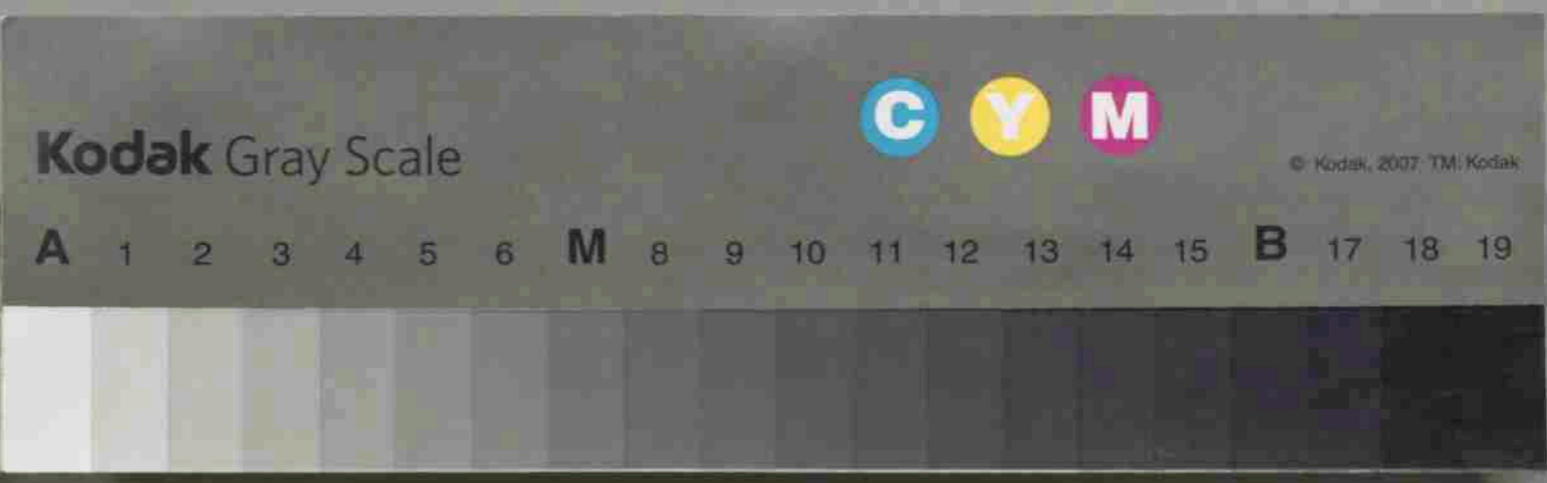








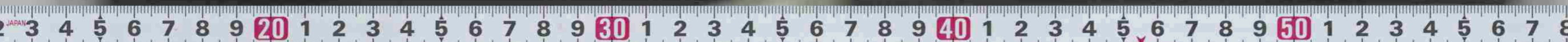




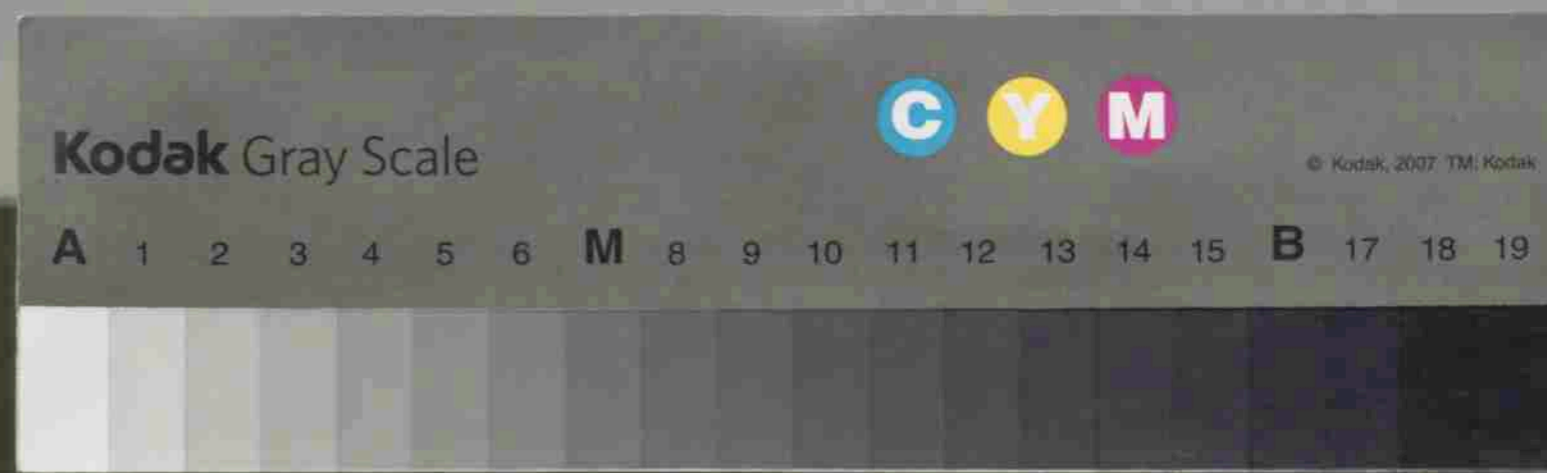
明治三十四年四月 校長 橋本長道	明治三十四年五月 校長 橋本長道	明治三十四年六月 校長 橋本長道	明治三十四年七月 校長 橋本長道	明治三十四年八月 校長 橋本長道	明治三十四年九月 校長 橋本長道	明治三十四年十月 校長 橋本長道	明治三十四年十一月 校長 橋本長道	明治三十四年十二月 校長 橋本長道	明治三十五年一月 校長 橋本長道	明治三十五年二月 校長 橋本長道	明治三十五年三月 校長 橋本長道	明治三十五年四月 校長 橋本長道	明治三十五年五月 校長 橋本長道	明治三十五年六月 校長 橋本長道	明治三十五年七月 校長 橋本長道	明治三十五年八月 校長 橋本長道	明治三十五年九月 校長 橋本長道	明治三十五年十月 校長 橋本長道	明治三十五年十一月 校長 橋本長道	明治三十五年十二月 校長 橋本長道
---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------

栃木縣上都賀郡清洲第一小學校

明治三十四年四月 校長 橋本長道	明治三十四年五月 校長 橋本長道	明治三十四年六月 校長 橋本長道	明治三十四年七月 校長 橋本長道	明治三十四年八月 校長 橋本長道	明治三十四年九月 校長 橋本長道	明治三十四年十月 校長 橋本長道	明治三十四年十一月 校長 橋本長道	明治三十四年十二月 校長 橋本長道	明治三十五年一月 校長 橋本長道	明治三十五年二月 校長 橋本長道	明治三十五年三月 校長 橋本長道	明治三十五年四月 校長 橋本長道	明治三十五年五月 校長 橋本長道	明治三十五年六月 校長 橋本長道	明治三十五年七月 校長 橋本長道	明治三十五年八月 校長 橋本長道	明治三十五年九月 校長 橋本長道	明治三十五年十月 校長 橋本長道	明治三十五年十一月 校長 橋本長道	明治三十五年十二月 校長 橋本長道
---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------







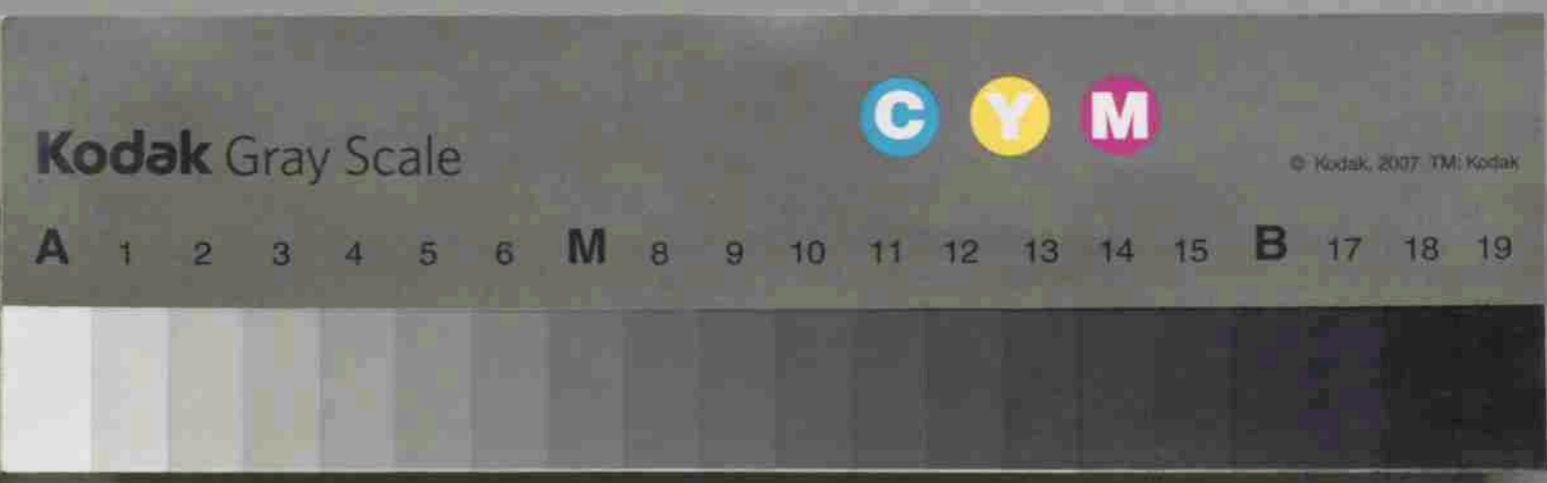
56

四月十四日	現在	訓導	板平	福嶋卜	四月二十三年五月
四月十三日	現在	准訓導	板平	福田野	四月二十三年七月
四月十日	現在	訓導	板平	落合求	四月二十三年三月二日
四月八日	現在	校長	今上	小倉美二郎	四月二十三年三月十日
四月八日	退職	校長	今上	野中利三郎	四月二十三年十月五日
四月八日	現在	校長	今上	小島勝一郎	四月二十三年一月十五日
四月八日	現在	校長	今上	神山勝義	四月二十三年一月二十七日
四月八日	現在	校長	今上	野沢千力	四月二十三年四月
四月八日	現在	校長	今上	橋下老市	四月二十三年三月十日
四月八日	現在	校長	今上	齋藤十郎	四月二十三年三月二十日
四月八日	現在	校長	今上	狐塚儀十郎	四月二十三年三月三十日

栃木縣上都賀郡清洲第一小學校

五月十日	現在	訓導	板平	福嶋卜	五月二十三年五月
五月十日	現在	准訓導	板平	福田野	五月二十三年七月
五月十日	現在	訓導	板平	落合求	五月二十三年三月二日
五月十日	現在	校長	今上	小倉美二郎	五月二十三年三月十日
五月十日	退職	校長	今上	野中利三郎	五月二十三年十月五日
五月十日	現在	校長	今上	小島勝一郎	五月二十三年一月十五日
五月十日	現在	校長	今上	神山勝義	五月二十三年一月二十七日
五月十日	現在	校長	今上	野沢千力	五月二十三年四月
五月十日	現在	校長	今上	橋下老市	五月二十三年三月十日
五月十日	現在	校長	今上	齋藤十郎	五月二十三年三月二十日
五月十日	現在	校長	今上	狐塚儀十郎	五月二十三年三月三十日

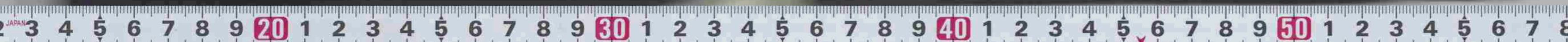
ウ21



6

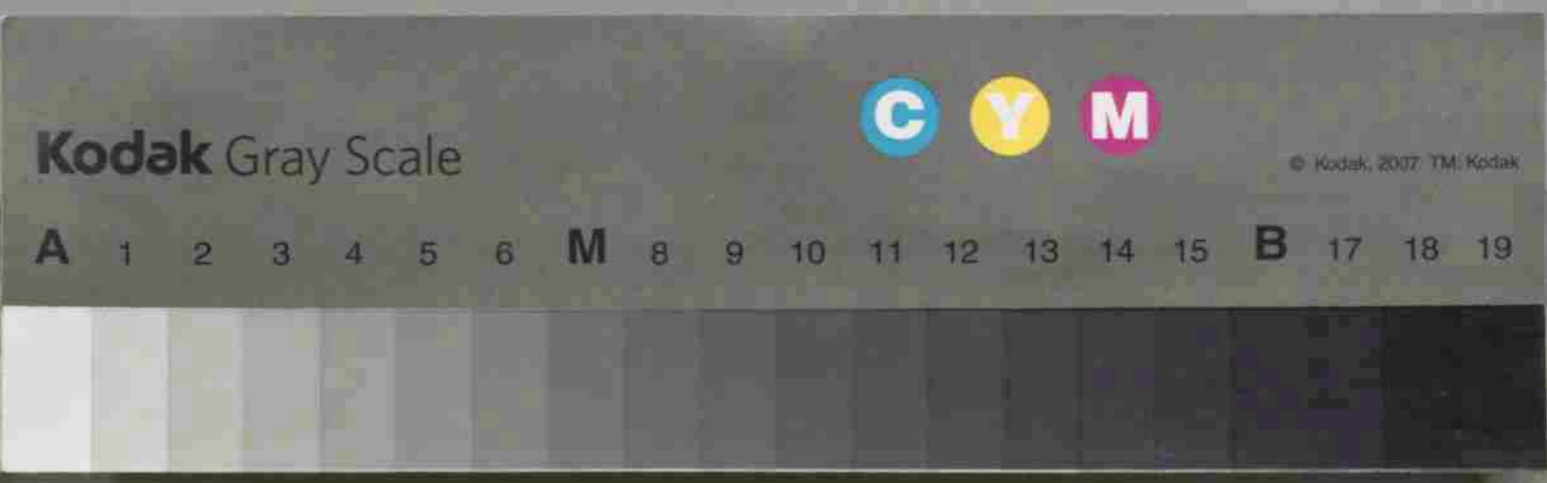
年	度	現在	名	若林	梅
明治三十四年	三月三十一日	八五二	九八〇	五六一	三九〇
明治三十五年	三月三十一日	九三八	九〇〇	五三一〇	三〇二一
明治三十六年	三月三十一日	一〇九六	八六三	四三七	四〇六
明治三十七年	三月三十一日	一二〇三	三三三	五三七	四三〇八
明治三十八年	三月三十一日	一三〇七	三三三	五三七	四三〇八
明治三十九年	三月三十一日	一四一〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十年	三月三十一日	一五二〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十一年	三月三十一日	一六三〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十二年	三月三十一日	一七四〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十三年	三月三十一日	一八五〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十四年	三月三十一日	一九六〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十五年	三月三十一日	二〇七〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十六年	三月三十一日	二一八〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十七年	三月三十一日	二二九〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十八年	三月三十一日	二三〇〇	三三三	五三七	四三〇八
明治四十九年	三月三十一日	二四一〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十年	三月三十一日	二五二〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十一年	三月三十一日	二六三〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十二年	三月三十一日	二七四〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十三年	三月三十一日	二八五〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十四年	三月三十一日	二九六〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十五年	三月三十一日	三〇七〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十六年	三月三十一日	三一八〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十七年	三月三十一日	三二九〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十八年	三月三十一日	三四〇〇	三三三	五三七	四三〇八
明治五十九年	三月三十一日	三五一〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十年	三月三十一日	三六二〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十一年	三月三十一日	三七三〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十二年	三月三十一日	三八四〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十三年	三月三十一日	三九五〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十四年	三月三十一日	四〇六〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十五年	三月三十一日	四一七〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十六年	三月三十一日	四二八〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十七年	三月三十一日	四三九〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十八年	三月三十一日	四五〇〇	三三三	五三七	四三〇八
明治六十九年	三月三十一日	四六一〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十年	三月三十一日	四七二〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十一年	三月三十一日	四八三〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十二年	三月三十一日	四九四〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十三年	三月三十一日	五〇五〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十四年	三月三十一日	五一六〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十五年	三月三十一日	五二七〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十六年	三月三十一日	五三八〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十七年	三月三十一日	五四九〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十八年	三月三十一日	五六〇〇	三三三	五三七	四三〇八
明治七十九年	三月三十一日	五七一〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十年	三月三十一日	五八二〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十一年	三月三十一日	五九三〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十二年	三月三十一日	六〇四〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十三年	三月三十一日	六一五〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十四年	三月三十一日	六二六〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十五年	三月三十一日	六三七〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十六年	三月三十一日	六四八〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十七年	三月三十一日	六五九〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十八年	三月三十一日	六七〇〇	三三三	五三七	四三〇八
明治八十九年	三月三十一日	六八一〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十年	三月三十一日	六九二〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十一年	三月三十一日	七〇三〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十二年	三月三十一日	七一四〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十三年	三月三十一日	七二五〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十四年	三月三十一日	七三六〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十五年	三月三十一日	七四七〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十六年	三月三十一日	七五八〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十七年	三月三十一日	七六九〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十八年	三月三十一日	七八〇〇	三三三	五三七	四三〇八
明治九十九年	三月三十一日	七九一〇	三三三	五三七	四三〇八
明治一百年	三月三十一日	八〇二〇	三三三	五三七	四三〇八

栃木縣上野原郡清洲第一小學校



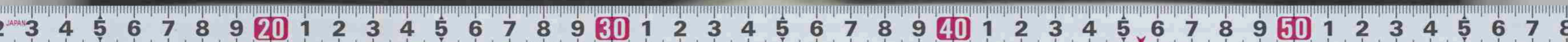


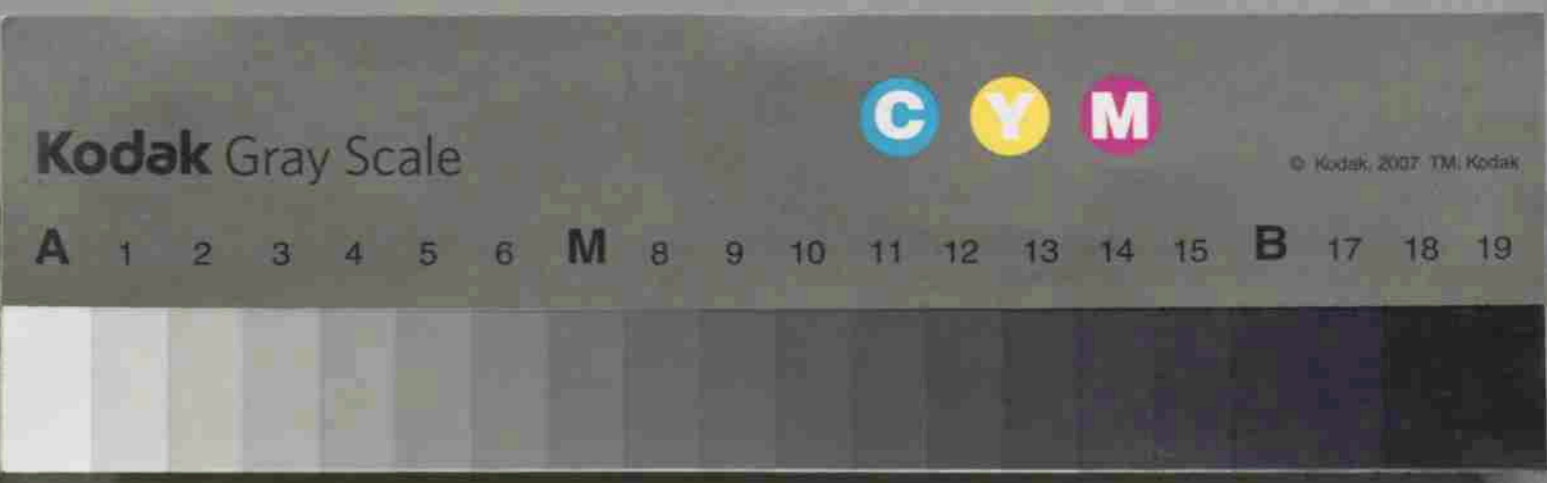




栃木縣上野原郡清洲第一小學校

左四五年生	一九四九、四九八	五、四〇八	六、一三〇
左四三年生	二二〇、四、六六〇	七、六〇〇	六、九六〇
左四二年生	二二五、三一五	六、五七〇	六、六九四
左四一年生	一九九、二、一八八	八、二〇〇	五、九一七
左四〇年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三九年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三八年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三七年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三六年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三五年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三四年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三三年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三二年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三一年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三十年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十九年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十八年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十七年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十六年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十五年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十四年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十三年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十二年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十一年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二十年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十九年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十八年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十七年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十六年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十五年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十四年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十三年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十二年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十一年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左十年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左九年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左八年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左七年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左六年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左五年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左四年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左三年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左二年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七
左一年生	一九一、一、一五〇	八、二〇〇	五、九一七





**児童調(第一小學校)**

年度	在籍		卒業		在籍		卒業	
	男	女	男	女	男	女	男	女
昭和十四年	三六	二〇	二九	一〇	二六	一〇	三	一
昭和十五年	四二	二二	三六	一〇	三三	一〇	四	一
昭和十六年	四九	二六	四三	一三	四〇	一三	五	一
昭和十七年	五五	三〇	四九	一七	四六	一七	六	一
昭和十八年	六一	三六	五五	二二	五二	二二	七	一
昭和十九年	六八	四二	六二	二八	五九	二八	八	一
昭和二十年	七五	四八	六九	三五	六六	三五	九	一
昭和二十一年	八二	五四	七六	四一	七三	四一	一〇	一
昭和二十二年	九〇	六一	八四	四九	八一	四九	一一	一
昭和二十三年	九七	六八	九一	五七	八八	五七	一二	一
昭和二十四年	一〇四	七四	九八	六五	九五	六五	一三	一
昭和二十五年	一一一	八〇	一〇五	七三	一〇二	七三	一四	一
昭和二十六年	一二〇	八八	一一四	八〇	一一一	八〇	一五	一
昭和二十七年	一二九	九六	一二三	八八	一二〇	八八	一六	一
昭和二十八年	一三六	一〇二	一三〇	九六	一二七	九六	一七	一
昭和二十九年	一四三	一一〇	一三七	一〇四	一三〇	一〇四	一八	一
昭和三十年	一五〇	一二〇	一四四	一一二	一四一	一一二	一九	一
昭和三十一年	一五七	一二八	一五一	一二〇	一四八	一二〇	二〇	一
昭和三十二年	一六四	一三六	一五八	一三〇	一五五	一三〇	二一	一
昭和三十三年	一七〇	一四四	一六四	一三九	一六一	一三九	二二	一
昭和三十四年	一七六	一五二	一七〇	一四七	一六七	一四七	二三	一
昭和三十五年	一八二	一六〇	一七六	一五五	一七三	一五五	二四	一
昭和三十六年	一八八	一六八	一八二	一六三	一七九	一六三	二五	一
昭和三十七年	一九四	一七六	一八八	一七二	一八五	一七二	二六	一
昭和三十八年	二〇〇	一八四	一九四	一八〇	一九一	一八〇	二七	一
昭和三十九年	二〇六	一九二	二〇〇	一九〇	一九七	一九〇	二八	一
昭和四十年	二一二	二〇〇	二〇六	一九八	二〇三	一九八	二九	一
昭和四十一年	二一八	二〇八	二一二	二〇六	二〇九	二〇六	三〇	一
昭和四十二年	二二四	二一六	二一八	二一四	二二一	二一四	三一	一
昭和四十三年	二三〇	二二四	二二四	二二〇	二三一	二二〇	三二	一
昭和四十四年	二三六	二三〇	二三〇	二二八	二三一	二二八	三三	一
昭和四十五年	二四二	二三二	二三六	二三六	二三三	二三六	三四	一
昭和四十六年	二四八	二三六	二四二	二三二	二四〇	二三二	三五	一
昭和四十七年	二五四	二四四	二四八	二四〇	二四七	二四〇	三六	一
昭和四十八年	二六〇	二五二	二五四	二四八	二六一	二四八	三七	一
昭和四十九年	二六六	二六〇	二六〇	二五六	二六七	二五六	三八	一
昭和五十年	二七二	二六八	二六六	二六四	二七三	二六四	三九	一
昭和五十一年	二七八	二七六	二七二	二七〇	二七九	二七〇	四〇	一
昭和五十二年	二八四	二八〇	二七八	二七六	二八五	二七六	四一	一
昭和五十三年	二九〇	二八四	二八四	二八四	二九三	二八四	四二	一
昭和五十四年	二九六	二九〇	二九〇	二九〇	二九九	二九〇	四三	一
昭和五十五年	三〇二	二九六	三〇〇	二九六	三〇九	二九六	四四	一
昭和五十六年	三〇八	三〇〇	三〇六	三〇〇	三一〇	三〇〇	四五	一
昭和五十七年	三一四	三〇六	三一〇	三〇六	三一〇	三〇六	四六	一
昭和五十八年	三二〇	三一二	三一六	三一〇	三二〇	三一〇	四七	一
昭和五十九年	三二六	三二〇	三二〇	三二〇	三二九	三二〇	四八	一
昭和六十年	三三二	三二六	三三〇	三二六	三三九	三二六	四九	一
昭和六十一年	三三八	三三二	三三六	三三二	三四五	三三二	五〇	一
昭和六十二年	三四四	三三六	三四〇	三三六	三五〇	三三六	五一	一
昭和六十三年	三五〇	三四四	三四四	三四四	三五五	三四四	五二	一
昭和六十四年	三五六	三五〇	三五四	三五〇	三六六	三五〇	五三	一
昭和六十五年	三六二	三五六	三六〇	三五六	三七〇	三五六	五四	一
昭和六十六年	三六八	三六二	三六六	三六二	三八〇	三六二	五五	一
昭和六十七年	三七四	三六八	三七二	三六八	三九〇	三六八	五六	一
昭和六十八年	三八〇	三七四	三八〇	三七四	四〇〇	三七四	五七	一
昭和六十九年	三八六	三八〇	三八四	三八〇	四一〇	三八〇	五八	一
昭和七十年	三九二	三八六	三九〇	三八六	四二〇	三八六	五九	一
昭和七十一年	三九八	三九二	三九六	三九二	四三〇	三九二	六〇	一
昭和七十二年	四〇四	三九八	四〇二	三九八	四四〇	三九八	六一	一
昭和七十三年	四一〇	四〇四	四〇八	四〇四	四五〇	四〇四	六二	一
昭和七十四年	四一六	四一〇	四一四	四一〇	四六〇	四一〇	六三	一
昭和七十五年	四二二	四一六	四二〇	四一六	四七〇	四一六	六四	一
昭和七十六年	四二八	四二二	四二六	四二二	四八〇	四二二	六五	一
昭和七十七年	四三四	四二八	四三二	四二八	四九〇	四二八	六六	一
昭和七十八年	四四〇	四三四	四三八	四三四	五〇〇	四三四	六七	一
昭和七十九年	四四六	四四〇	四四四	四四〇	五一〇	四四〇	六八	一
昭和八十年	四五二	四四六	四五〇	四四六	五二〇	四四六	六九	一
昭和八十一年	四五八	四五二	四五六	四五二	五三〇	四五二	七〇	一
昭和八十二年	四六四	四五八	四六二	四五八	五四〇	四五八	七一	一
昭和八十三年	四七〇	四六四	四六八	四六四	五五〇	四六四	七二	一
昭和八十四年	四七六	四七〇	四七四	四七〇	五六〇	四七〇	七三	一
昭和八十五年	四八二	四七六	四八〇	四七六	五七〇	四七六	七四	一
昭和八十六年	四八八	四八二	四八六	四八二	五八〇	四八二	七五	一
昭和八十七年	四九四	四八八	四九二	四八八	五九〇	四八八	七六	一
昭和八十八年	五〇〇	四九四	四九八	四九四	六〇〇	四九四	七七	一
昭和八十九年	五〇六	五〇〇	五〇四	五〇〇	六一〇	五〇〇	七八	一
昭和九十年	五一二	五〇六	五一〇	五〇六	六二〇	五〇六	七九	一
昭和九十一年	五一八	五一二	五二二	五一八	六三〇	五一八	八〇	一
昭和九十二年	五二四	五一八	五二四	五一八	六四〇	五一八	八一	一
昭和九十三年	五三〇	五二四	五三〇	五二四	六五〇	五二四	八二	一
昭和九十四年	五三六	五三〇	五四〇	五三〇	六六〇	五三〇	八三	一
昭和九十五年	五四二	五三六	五四六	五三六	六七〇	五三六	八四	一
昭和九十六年	五四八	五四二	五五二	五四二	六八〇	五四二	八五	一
昭和九十七年	五五四	五四八	五五八	五四八	六九〇	五四八	八六	一
昭和九十八年	五六〇	五五四	五六四	五五四	七〇〇	五五四	八七	一
昭和九十九年	五六六	五六〇	五六六	五六〇	七一〇	五六〇	八八	一
昭和一百年	五七二	五六六	五七二	五六六	七二〇	五六六	八九	一

**高等科**

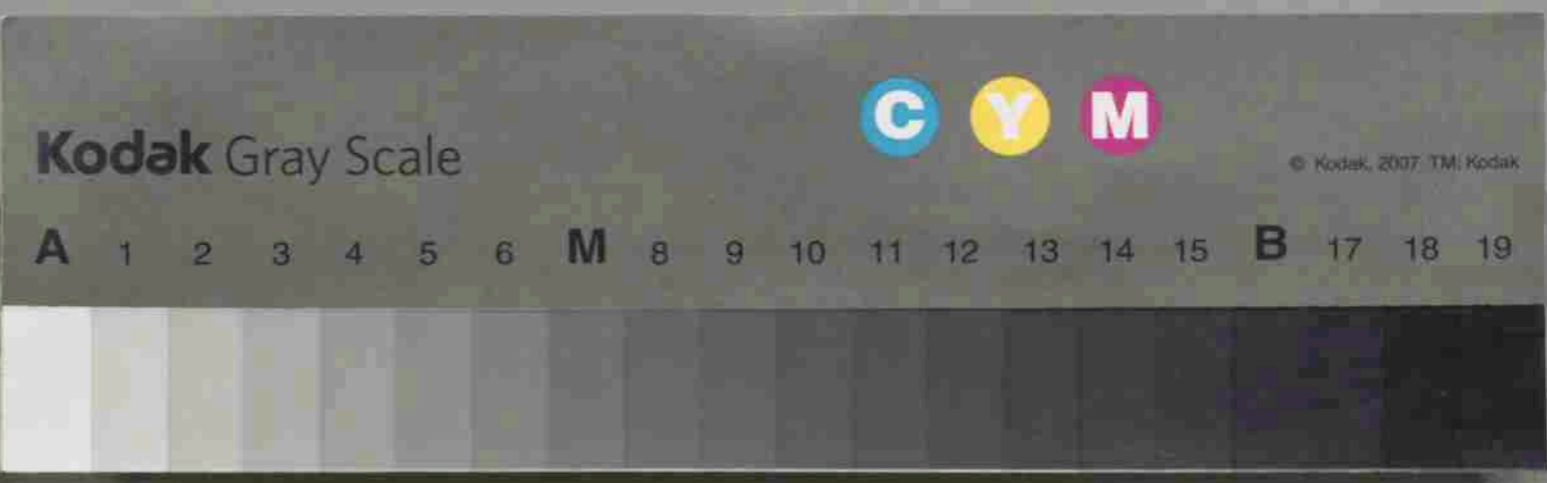
**高等科**

昭和十四年	一〇	一〇	二〇
昭和十五年	一〇	一〇	二〇
昭和十六年	一〇	一〇	二〇
昭和十七年	一〇	一〇	二〇
昭和十八年	一〇	一〇	二〇
昭和十九年	一〇	一〇	二〇
昭和二十年	一〇	一〇	二〇
昭和二十一年	一〇	一〇	二〇
昭和二十二年	一〇	一〇	二〇
昭和二十三年	一〇	一〇	二〇
昭和二十四年	一〇	一〇	二〇
昭和二十五年	一〇	一〇	二〇
昭和二十六年	一〇	一〇	二〇
昭和二十七年	一〇	一〇	二〇
昭和二十八年	一〇	一〇	二〇
昭和二十九年	一〇	一〇	二〇
昭和三十年	一〇	一〇	二〇
昭和三十一年	一〇	一〇	二〇
昭和三十二年	一〇	一〇	二〇
昭和三十三年	一〇	一〇	二〇
昭和三十四年	一〇	一〇	二〇
昭和三十五年	一〇	一〇	二〇
昭和三十六年	一〇	一〇	二〇
昭和三十七年	一〇	一〇	二〇
昭和三十八年	一〇	一〇	二〇
昭和三十九年	一〇	一〇	二〇
昭和四十年	一〇	一〇	二〇
昭和四十一年	一〇	一〇	二〇
昭和四十二年	一〇	一〇	二〇
昭和四十三年	一〇	一〇	二〇
昭和四十四年	一〇	一〇	二〇
昭和四十五年	一〇	一〇	二〇
昭和四十六年	一〇	一〇	二〇
昭和四十七年	一〇	一〇	二〇
昭和四十八年	一〇	一〇	二〇
昭和四十九年	一〇	一〇	二〇
昭和五十年	一〇	一〇	二〇
昭和五十一年	一〇	一〇	二〇
昭和五十二年	一〇	一〇	二〇
昭和五十三年	一〇	一〇	二〇
昭和五十四年	一〇	一〇	二〇
昭和五十五年	一〇	一〇	二〇
昭和五十六年	一〇	一〇	二〇
昭和五十七年	一〇	一〇	二〇
昭和五十八年	一〇	一〇	二〇
昭和五十九年	一〇	一〇	二〇
昭和六十年	一〇	一〇	二〇
昭和六十一年	一〇	一〇	二〇
昭和六十二年	一〇	一〇	二〇
昭和六十三年	一〇	一〇	二〇
昭和六十四年	一〇	一〇	二〇
昭和六十五年	一〇	一〇	二〇
昭和六十六年	一〇	一〇	二〇
昭和六十七年	一〇	一〇	二〇
昭和六十八年	一〇	一〇	二〇
昭和六十九年	一〇	一〇	二〇
昭和七十年	一〇	一〇	二〇
昭和七十一年	一〇	一〇	二〇
昭和七十二年	一〇	一〇	二〇
昭和七十三年	一〇	一〇	二〇
昭和七十四年	一〇	一〇	二〇
昭和七十五年	一〇	一〇	二〇
昭和七十六年	一〇	一〇	二〇
昭和七十七年	一〇	一〇	二〇
昭和七十八年	一〇	一〇	二〇
昭和七十九年	一〇	一〇	二〇
昭和八十年	一〇	一〇	二〇
昭和八十一年	一〇	一〇	二〇
昭和八十二年	一〇	一〇	二〇
昭和八十三年	一〇	一〇	二〇
昭和八十四年	一〇	一〇	二〇
昭和八十五年	一〇	一〇	二〇
昭和八十六年	一〇	一〇	二〇
昭和八十七年	一〇	一〇	二〇
昭和八十八年	一〇	一〇	二〇
昭和八十九年	一〇	一〇	二〇
昭和九十年	一〇	一〇	二〇
昭和九十一年	一〇	一〇	二〇
昭和九十二年	一〇	一〇	二〇
昭和九十三年	一〇	一〇	二〇
昭和九十四年	一〇	一〇	二〇
昭和九十五年	一〇	一〇	二〇
昭和九十六年	一〇	一〇	二〇
昭和九十七年	一〇	一〇	二〇
昭和九十八年	一〇	一〇	二〇
昭和九十九年	一〇	一〇	二〇
昭和一百年	一〇	一〇	二〇







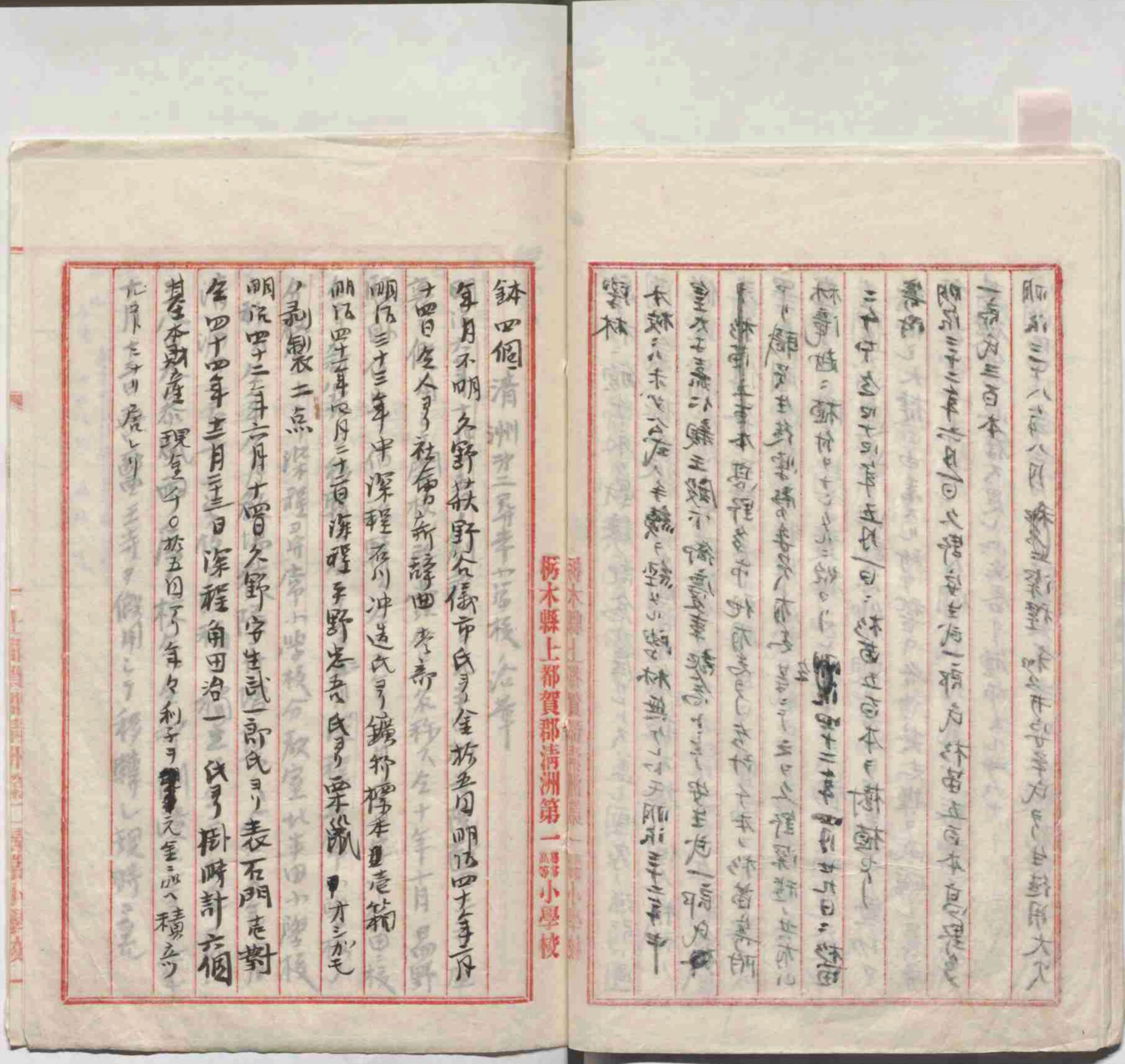
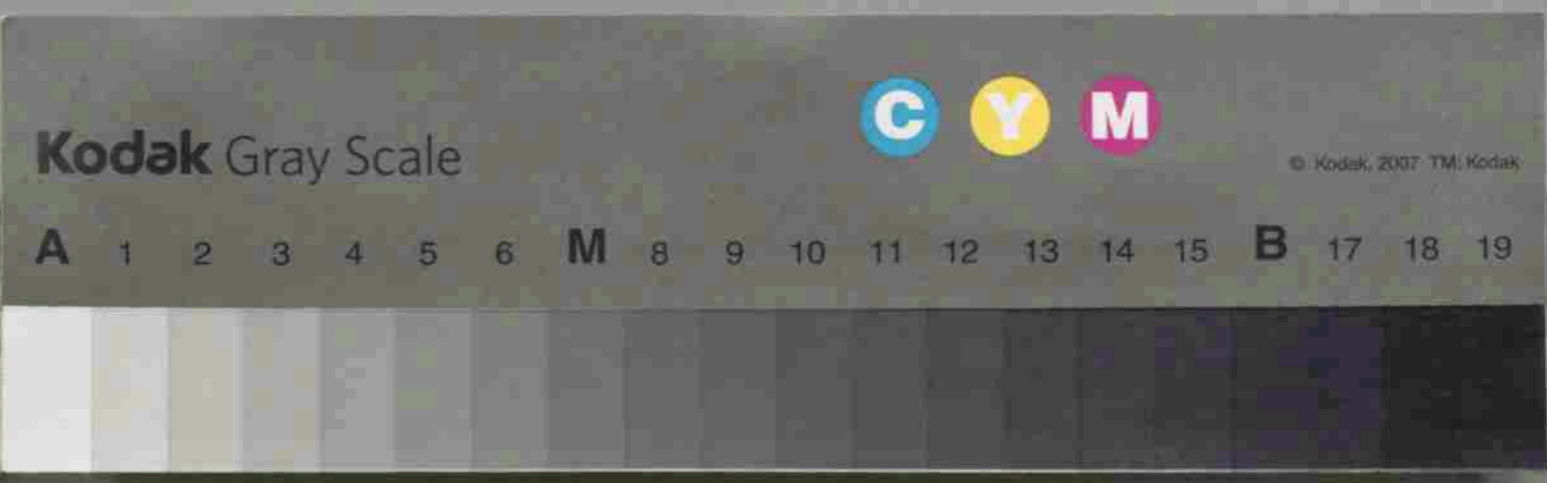


陽明寺... 清洲第一小学校... 久野... 安生武一郎氏... 明治三十八年八月...

本校ハ未ダ公式ノ手續ヲ經ケルニシテ... 皇太子嘉仁親王殿下御慶奉記念トシテ... 安生武一郎氏... 明治三十八年八月... 和名安生氏ヲ生徒用大火...

陽明寺... 清洲第一小学校... 久野... 安生武一郎氏... 明治三十八年八月... 和名安生氏ヲ生徒用大火...





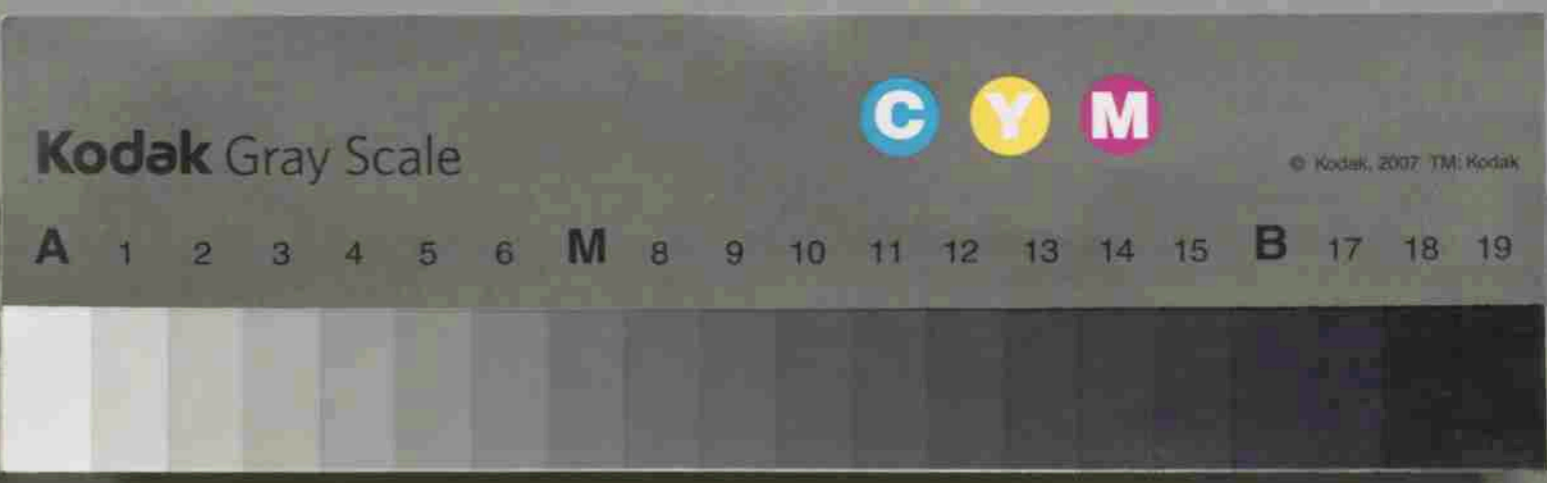
栃木縣上都賀郡清洲第一小學校

鉢四個 清洲第一小學校  
毎月不明久野萩野公儀市氏より金坊五月明正四年正月  
十四日人より社務所新辞曲考新入移入在十年十月  
明正三十三年中深程石川冲送氏より鏡折標本是巻箱  
明正四十四年四月二十日海程手野忠孝氏より栗鼠 甲才シカ毛  
ノ剥製衣二点 以深程石川常上學校分取置以美田小學校  
明治四十二年六月十日久野守生武一高氏より表石門在對  
在四十四年正月五日深程角田治一氏より掛時計六個  
其在本財產不現金等〇於五月了了年々利子ヲ變賣元金ニ入積之ツ  
九月七日唐ノ西三寺ノ借用シテ移轉シ現時ニ在

明治三十八年八月 藤野新野 味在守幸乃 其對用大入  
一書及三百本  
明治三十九年九月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十年十月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十一年十一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十二年十二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十三年一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十四年二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十五年三月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十六年四月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十七年五月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十八年六月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治四十九年七月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十年八月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十一年九月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十二年十月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十三年十一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十四年十二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十五年一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十六年二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十七年三月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十八年四月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治五十九年五月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十年六月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十一年七月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十二年八月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十三年九月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十四年十月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十五年十一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十六年十二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十七年一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十八年二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治六十九年三月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十年四月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十一年五月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十二年六月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十三年七月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十四年八月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十五年九月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十六年十月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十七年十一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十八年十二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治七十九年一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十年二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十一年三月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十二年四月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十三年五月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十四年六月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十五年七月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十六年八月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十七年九月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十八年十月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治八十九年十一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十年十二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十一年一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十二年二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十三年三月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十四年四月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十五年五月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十六年六月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十七年七月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十八年八月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十九年九月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十年十月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十年十一月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置  
明治九十年十二月十日久野守生乃一書乃 鉢田五百本自置





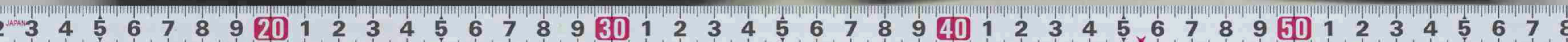


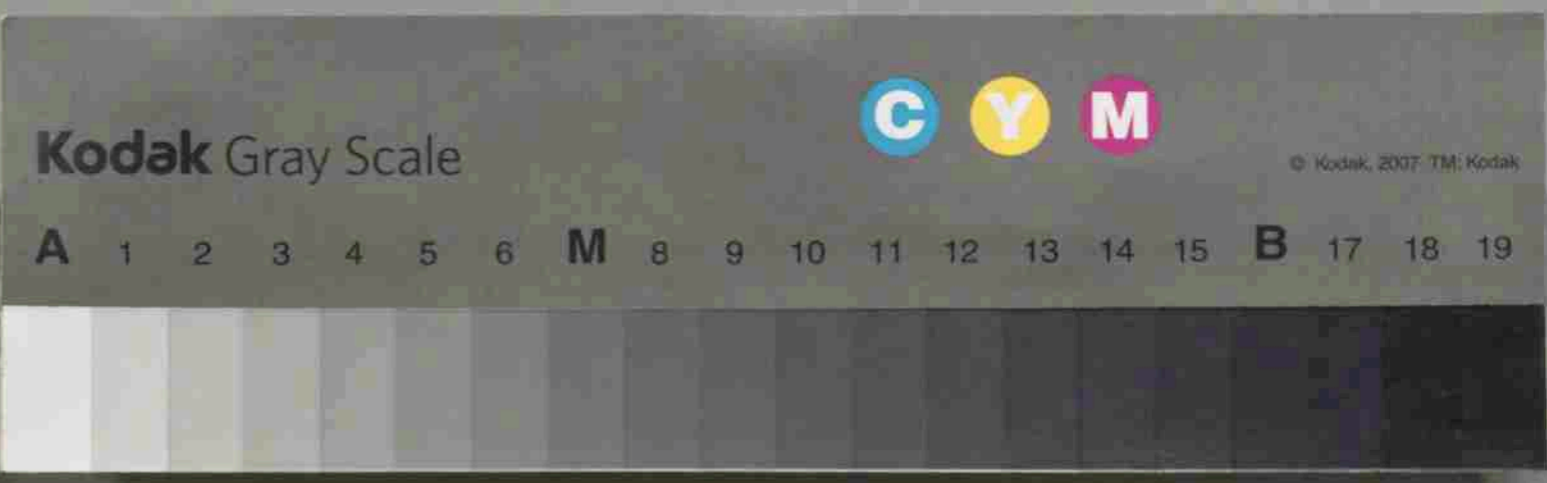
清洲才二昇幸々学校沿革

明治六年十月十五日、創設ニシテ北幸田村寺院毘王寺・庫裏ヲ借用シテ學校シ啓業合ト名移ス左十年十月昌野賢助住定ヲ借リ移轉ス左十五年五月十二日字中新田ニ校舎ヲ新築シテ移轉ス左二十年三月深程ヲ昇幸々小學校ノ分教室トナリ深程ヲ昇幸々小學校分教室北幸田小學校ト移ス左年々月放場狹隘付増築ス左三十五年四月清洲才二昇幸々校ト改稱シ獨立ス左三十五年九月二日大暴風雨ノ爲メ校舎全部倒潰セシヨリ全年十月十三日再ビ毘王寺ヲ借用シテ移轉シ現時ニ至ル

栃木縣上都賀郡清洲第一尋常小學校

明治六年十月十五日、創設ニシテ北幸田村寺院毘王寺・庫裏ヲ借用シテ學校シ啓業合ト名移ス左十年十月昌野賢助住定ヲ借リ移轉ス左十五年五月十二日字中新田ニ校舎ヲ新築シテ移轉ス左二十年三月深程ヲ昇幸々小學校ノ分教室トナリ深程ヲ昇幸々小學校分教室北幸田小學校ト移ス左年々月放場狹隘付増築ス左三十五年四月清洲才二昇幸々校ト改稱シ獨立ス左三十五年九月二日大暴風雨ノ爲メ校舎全部倒潰セシヨリ全年十月十三日再ビ毘王寺ヲ借用シテ移轉シ現時ニ至ル





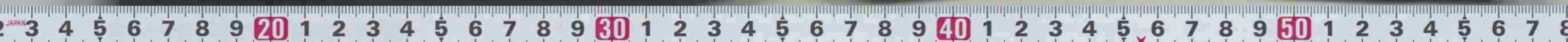
Handwritten table with columns and rows of numbers. The table is enclosed in a red border. The columns are labeled with numbers 1 through 12 at the top. The rows are labeled with numbers 1 through 12 on the left side. The numbers are written in black ink.

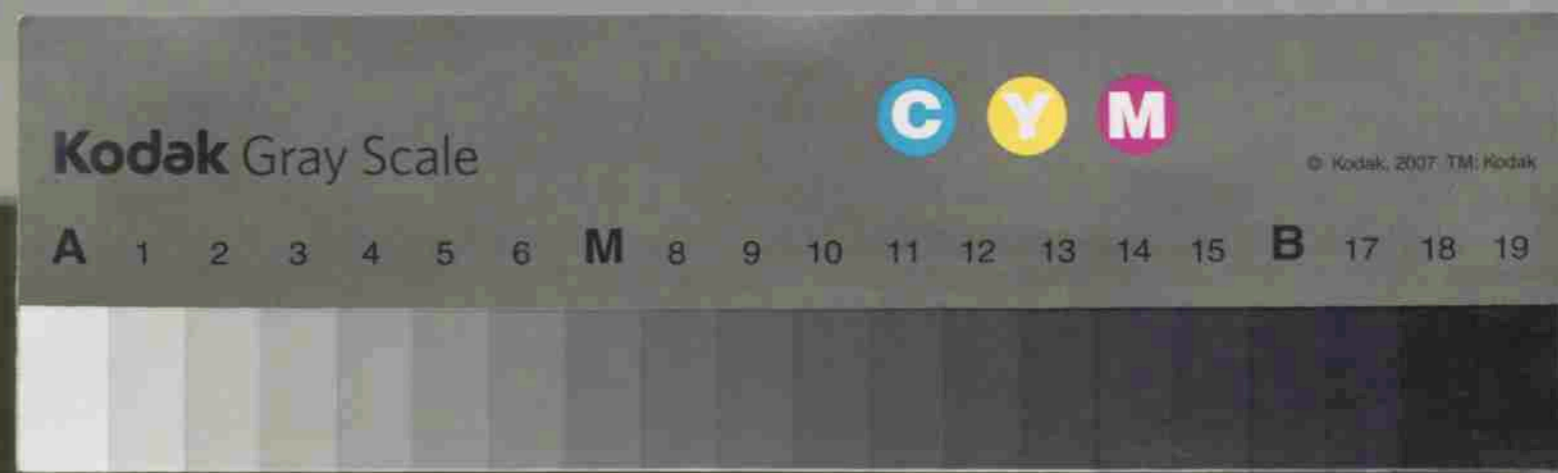
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

經費

Handwritten text in vertical columns, likely a ledger or account book. The text is written in black ink on aged paper. The columns are separated by red lines. The text is written in a cursive style.

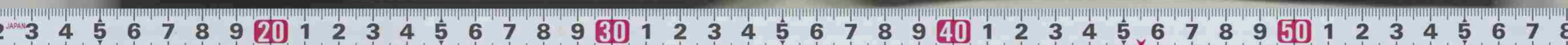
上部書部用第一二部書小學校

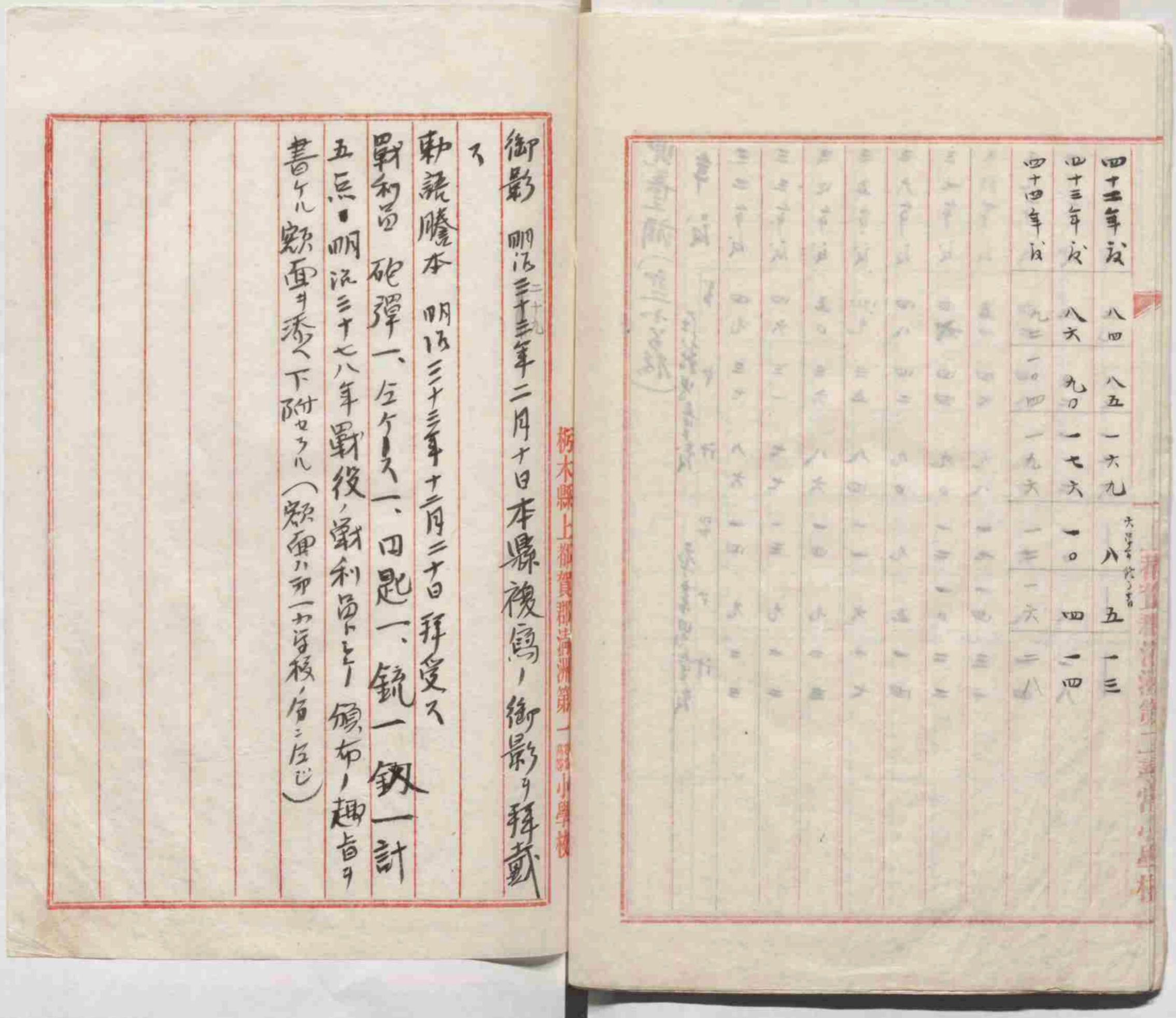
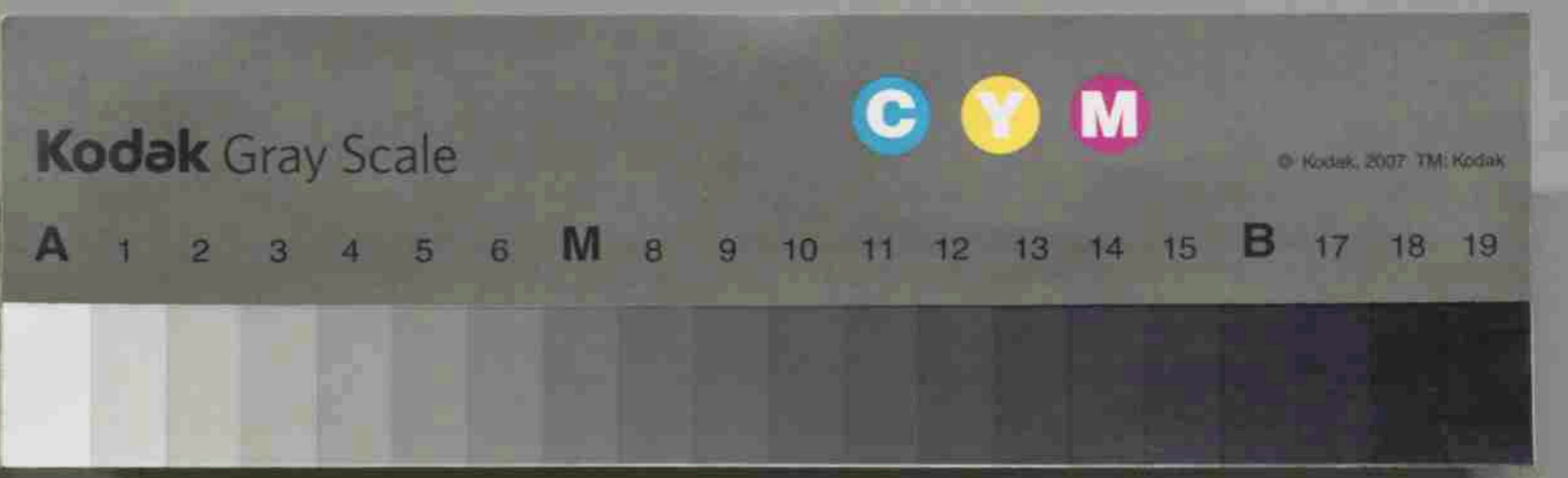




児童調(五十年分)

四十二年分	四十一年分	三十九年分	三十八年分	三十七年分	三十六年分	三十五年分	三十四年分	三十三年分	三十二年分	年分
五九	五〇	四二	五一	四六	四八	四九	五〇	四六	四九	男
六七	五二	四八	四七	四四	四二	三五	三六	三一	三七	計
一二	一〇	九〇	九八	九〇	九〇	八四	八六	七七	八六	計
一	一〇	六	一七	一	九	一	一四	一三	一四	計
一	八	八	一四	一〇	五	六	九	九	九	計
一	一八	一四	三一	二二	一四	一七	二二	二二	二三	計





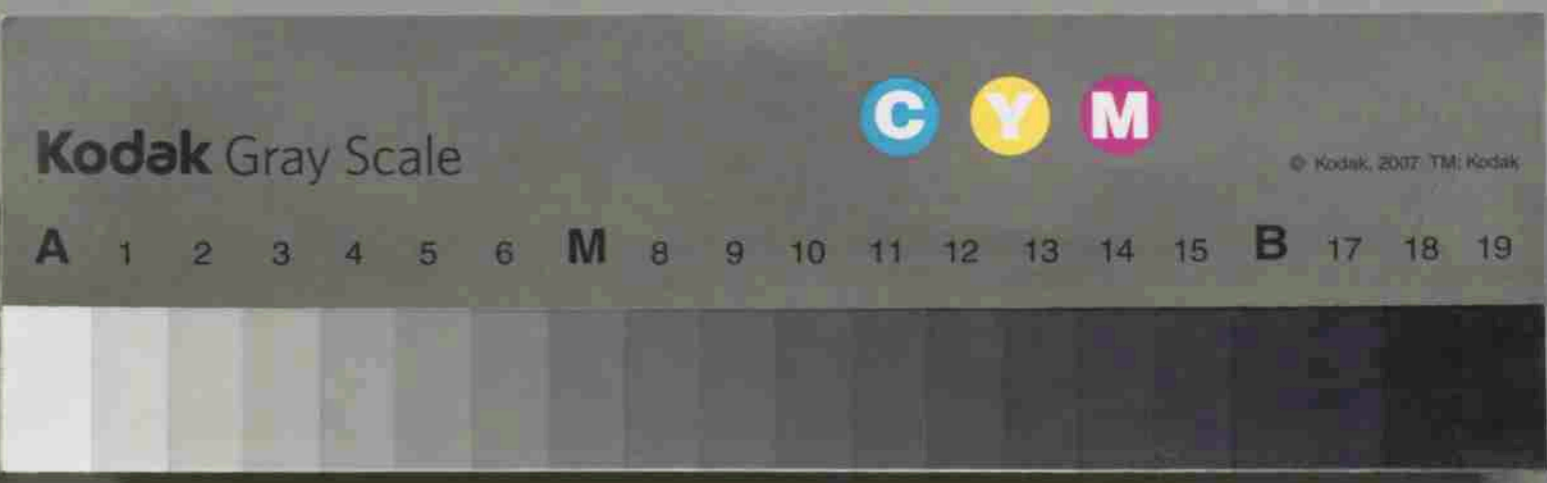
御影 明治三十三年二月十日 本縣被寫、御影ヲ拜戴  
 勅詔 本 明治三十三年十二月二十日 拜受ス  
 勳利 砲彈一、左ノ入一、四匙一、銃一、劍一、計  
 五品、明治三十七八年 戰役、勳利 勳布ノ趣旨ヲ  
 書ケル 勳面ヲ添ヘ下付セラル (勳面ハ一ノ字様ノ旨ニ左ジ)

四十二年反	八四	八五	一六九	八	五	一三
四十三年反	八六	九〇	一七六	一〇	四	一四
四十四年反	九二	一〇四	一九六	一一	六	二八





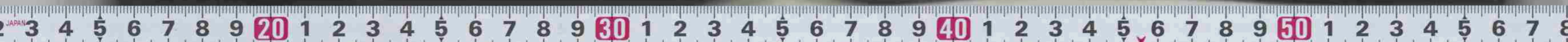




二天谷久造公府  
 北羊田天谷安造氏ノ曾祖父ニシテ、叔父ト号ス、算法ニ巧  
 ニシテ、辰村ノ子孫ニ教ヘ、又屢算法指南ヲ以テ他國ニ漫  
 遊セリト云フ、天保八年、年五十三、歿ス、著書ニ左ノ數種アリ  
 一 釣股通等集 一十〇六題  
 二 算法釣股同矩図解 全  
 三 檣梯算法記  
 四 北羊田村地圖

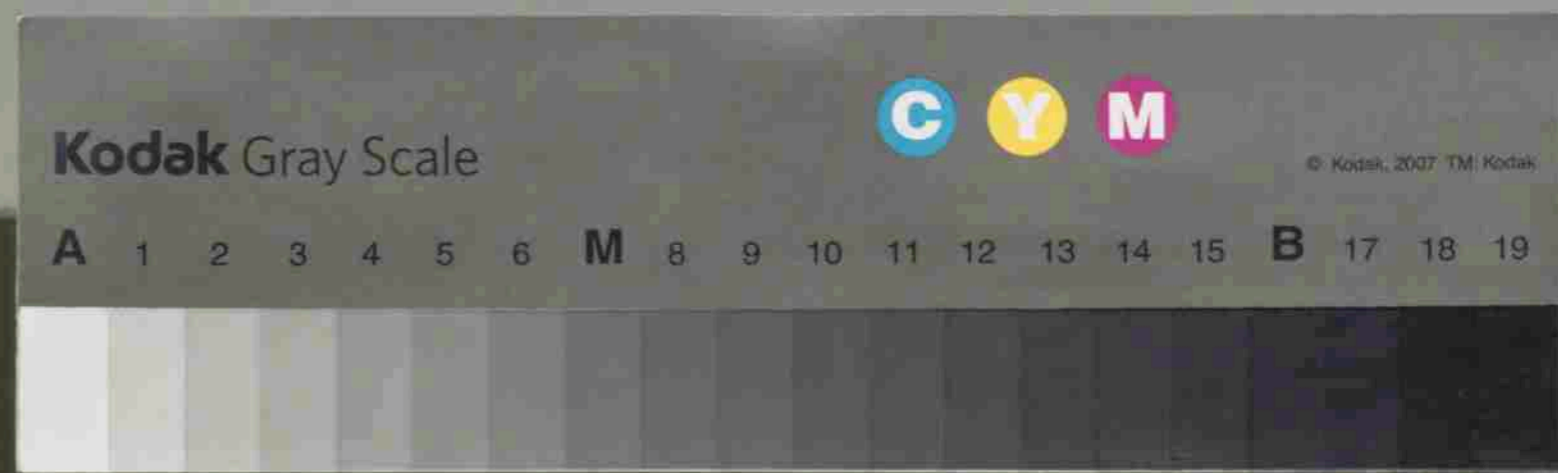
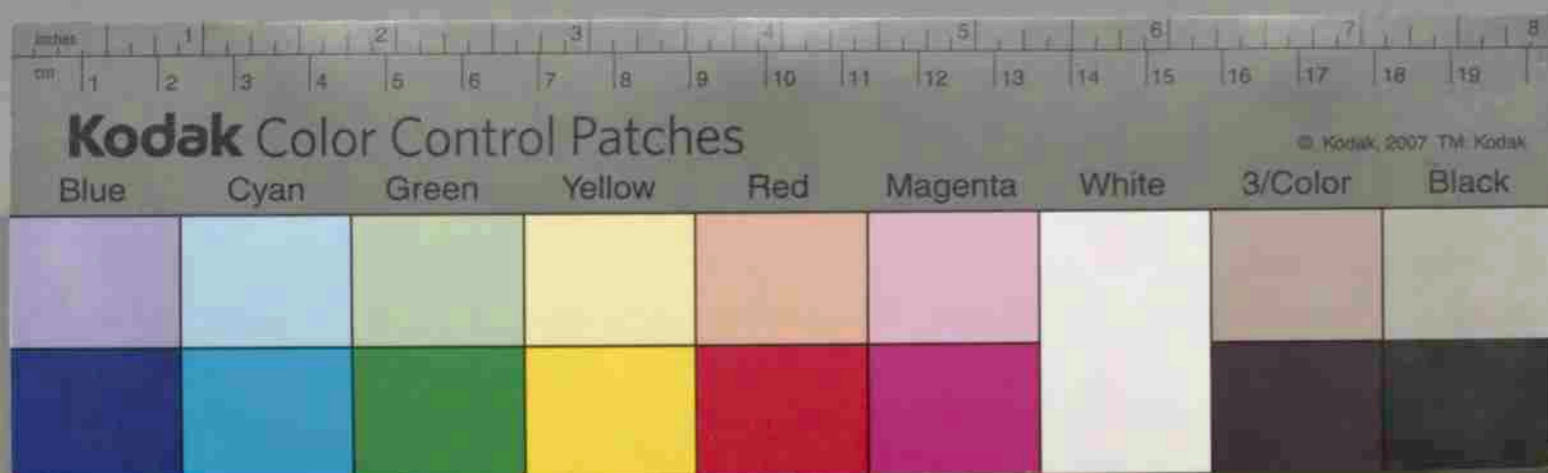
栃木縣上都賀郡清洲第一小學校

困憐善天民之修兵學、遠自先生之學、文武兼具、其况有征夷之深  
 哀乎、君為人温而栗、奉長則敬、待幼則慈、持貴能恭、御財能  
 恕、其養身、徒也、推演博約、曰讀書、且為修、自也、自修、則家國天下、可  
 坐而遊、矣、不修、自而讀、汗牛充棟、亦何益、是為下、之徒、志、學、易  
 侍、養、身、自、周、旋、多、事、益、身、明、治、甲、戌、自、患、痛、醫、藥、不、驗、自、七、日、遂  
 卒、年、七、十、不、勝、無、嗣、及、疾、病、諱、子、遺、言、其、諸、子、孰、以、後、事、葬、并、深、程、邑、諸  
 子、違、事、者、請、銘、于、碑、之、老、考、不、得、詳、既、作、誌、嬰、以、銘、銘、曰  
 自入幽谷 粵遷為水 嚶其鳴矣 文友郁冷名  
 梅香 香案如生  
 明治八年乙亥四月  
 浪華樓後學後年九齡樺翁並河鳳來撰  
 明治十五年一月 明人建





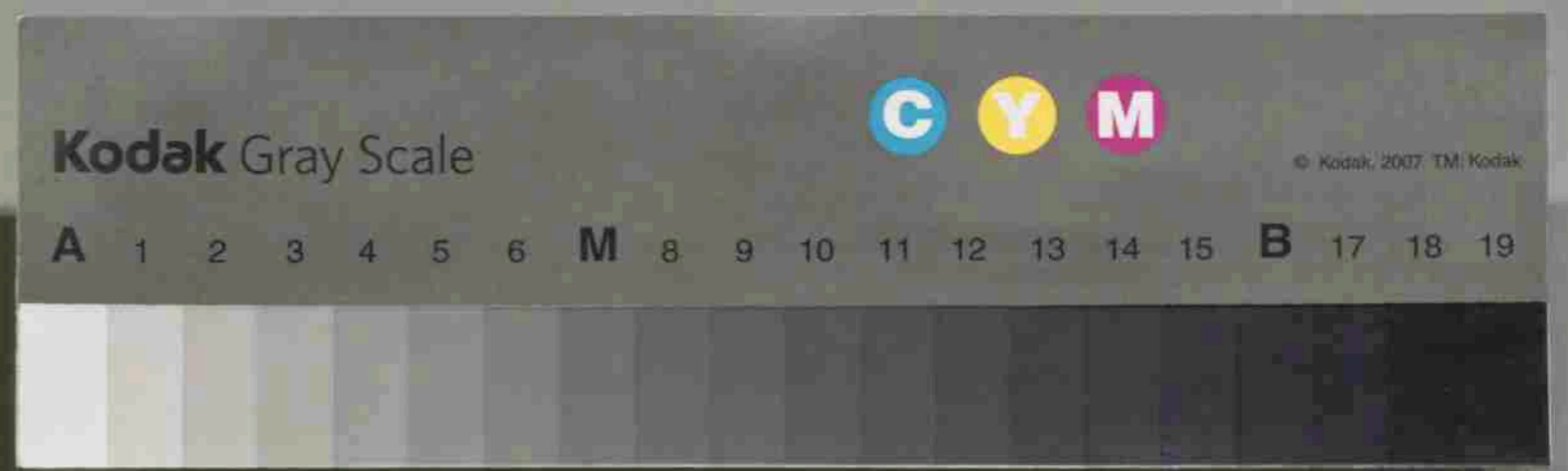
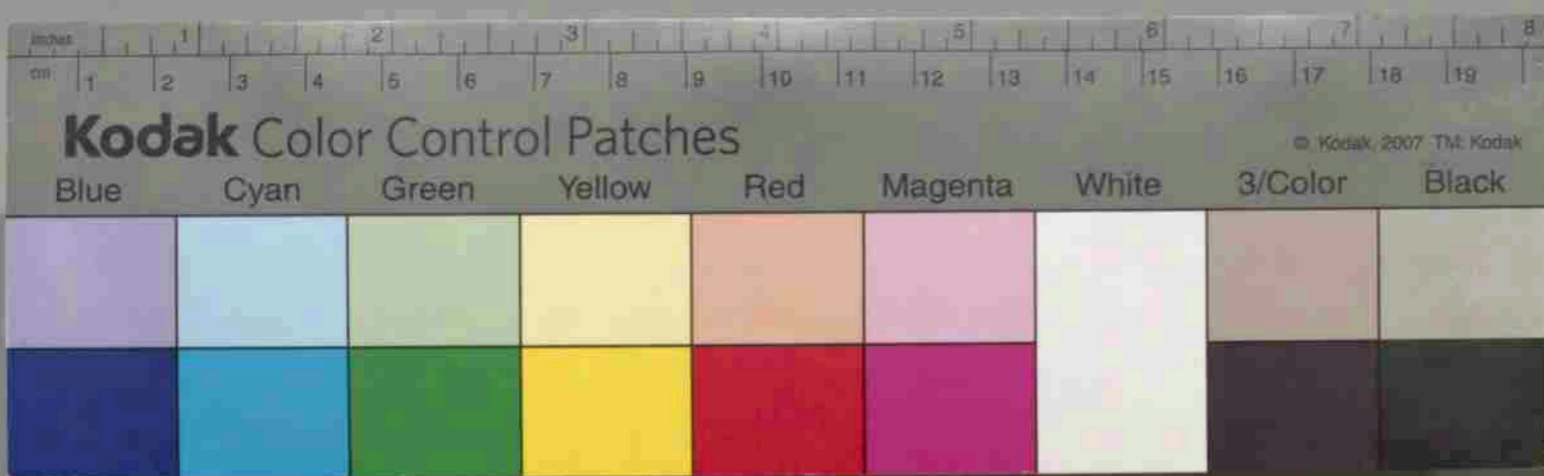




二 同窓會 大字北半田ノ青年ヨリ成ル本年一月ノ創  
 立ニ係リ 創業者勿々ナラステ未ダ別ニ事業トシテ  
 記スベキモノナシ 只毎月會員ヨリ 金貳錢ツツ 會  
 費ヲ徵收シツアルヲ以テ之ヲ 基本金ニ充テ他日事  
 業ヲ計劃セントス 會員ハ現今 中津余ニテ 會長  
 ハ 第二尋常小學校校長 大塚道三氏ナリ、  
 三 上郡賀郡南部聯合青年會 南押奈 西方清洲 真名子南  
 摩栗野ノ一町五村ノ聯合ヨリ成ル 明治四十四年ノ創立ニキリ 一四  
 本村連事 四月三日 神武天皇祭ヲトシテ 松村介石先生ヲ 招  
 シテ 王寺ノ開ケリ 會集千人ニ至ントス 青年 擲擲上利ス  
 ル所少カラルナリ

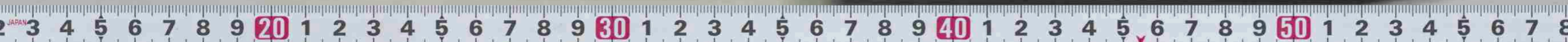
第六節 諸會  
 青年會 大字久野 深程ノ青年ヨリ成立シ 明治四十  
 一年一月ノ創立ナリ 年々尋常若クハ高等ノ卒業生  
 ヲ會員ニ加入ス 現今ノ會員 名アリテ 第一尋常  
 小學校校長 野中利三郎氏之ガ會長タリ 事業トシテ  
 農閑ノ時ヲ利用シ 夜學會ヲ催シ 修身國語算  
 術等ニ関スル補習ヲナシ 又尚武ノ氣象 養成ノ  
 爲メ 時々 撃拳 劍ヲ講習シ 若クハ 祝祭日ニ 會員  
 ヲ招致シテ 通俗講談話會等ヲ開催ス

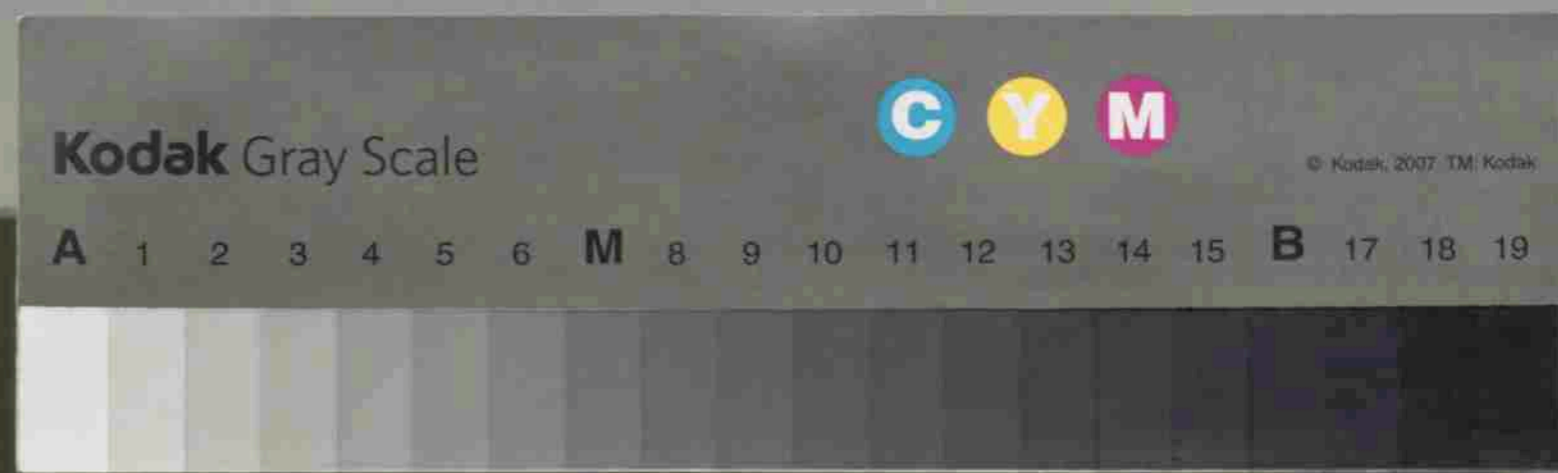
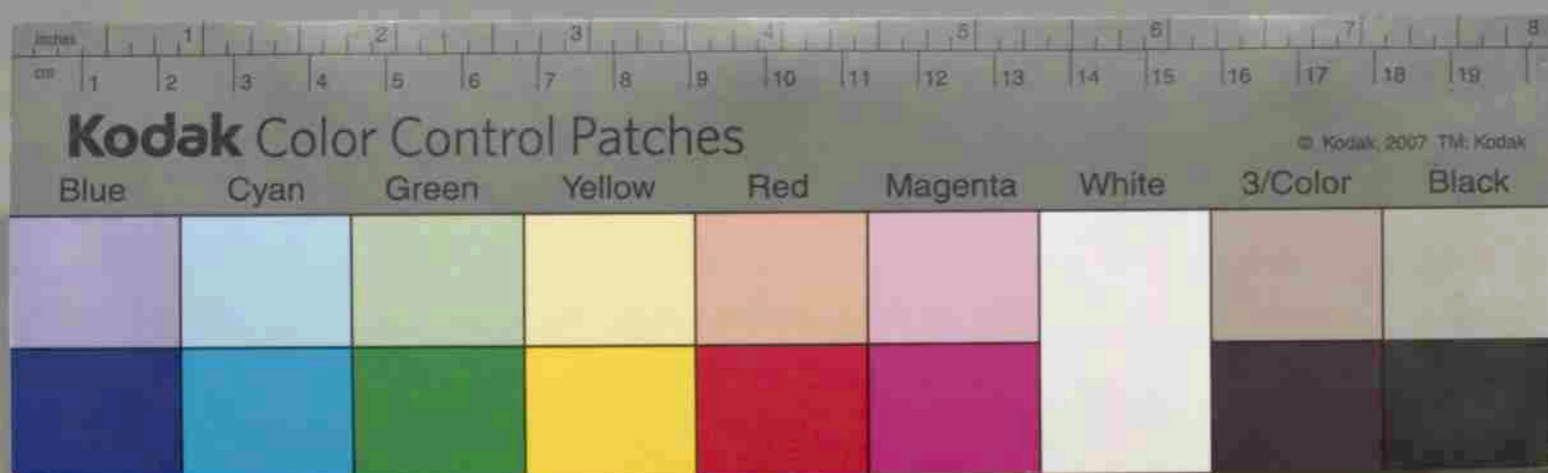
大字 北半田	〇	〇	三	一	四	一	〇	〇	一	〇	一	一
合計	三	〇	三	一	四	一	〇	〇	一	〇	一	一



四農會  
 明治三十三年七月本村農會ヲ設立ス  
 但役場ニ於テ事務ヲトル  
 當時ノ會長ハ村長石川沖造氏ナリ  
 明治三十六年四月十七日認許ノ役員左ノ如シ  
 會長 渡邊 順  
 副會長 宇塚半十郎  
 理事 平野 要  
 同 関口重吉  
 同 小保方善造  
 評議員 十五人

(Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page)





郡農會代表者

渡邊 順  
金田慶次

農會事業ノ重ナルモノ

明治三十六年ニ於テ苗代呂評會ヲ開ク

今年種子交換ヲ行フ

今年米麦種子塩水撰種法ヲ行フ

明治三十七年十月二十七日稻作立毛呂評會ヲ行フ

今年督勵委員ニ囑托平野忠吾農作物一般

ノ栽培法ヲ指導督勵ス

明治三十八年稻作立毛呂評會ヲ行フ

本村農會ハ明治三十八年十月勅令第二百二十五号  
農會令ニヨリ今三十九年役場ヨリ獨立ス

會長 宇塚半十郎

副會長 萩野谷儀市

郡農會代表者 小保方善造

評議員 全 人

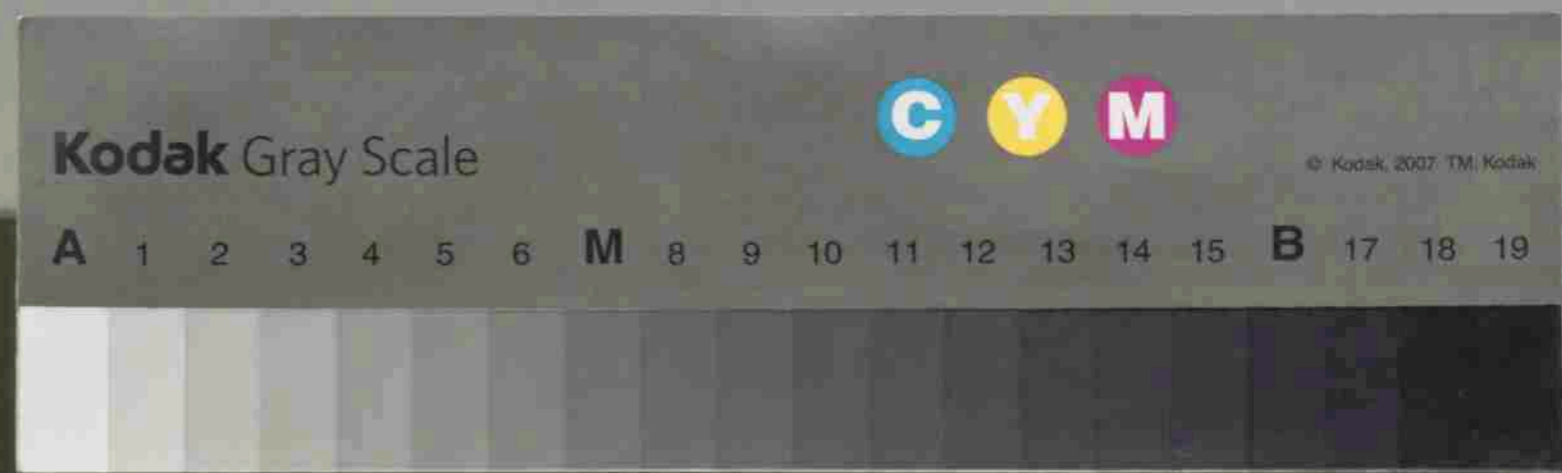
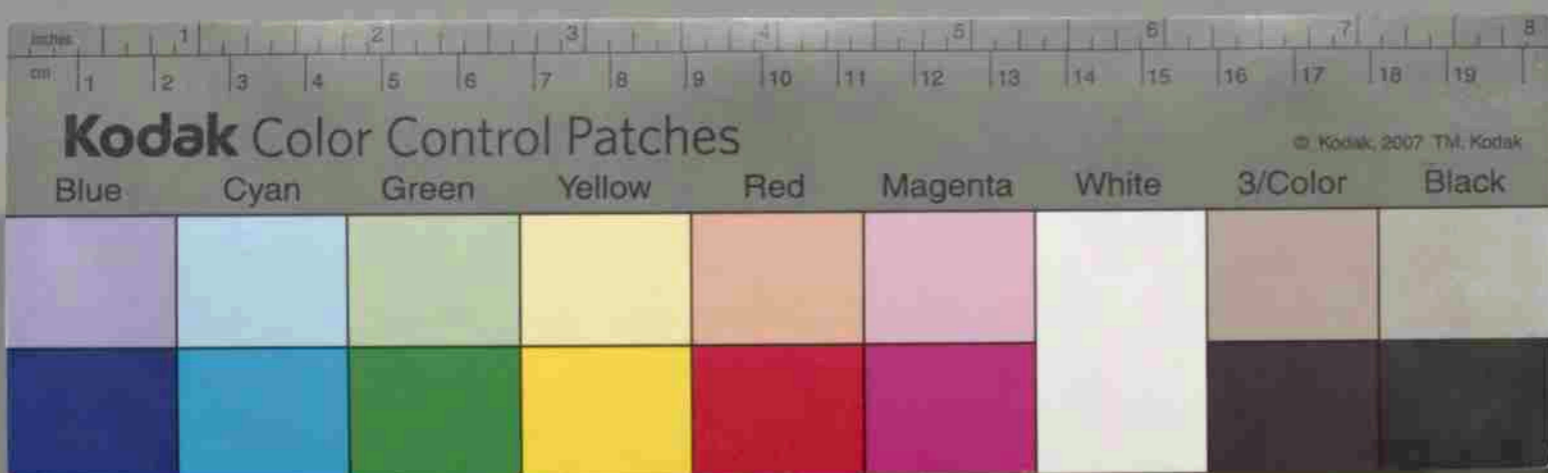
松島太吉

青木喜代次

石川友吉

大貫和三郎

遠藤市作



明治四十年四月十日 技術委員任命 小倉文平  
書記 金田喜内

明治四十年四月一日 農會役員改選

會長 安生武一郎  
副會長 金田慶次  
代表者 平野忠吾  
早乙女廣作  
幹事 萩野谷儀市  
平野忠吾  
評議員 七人

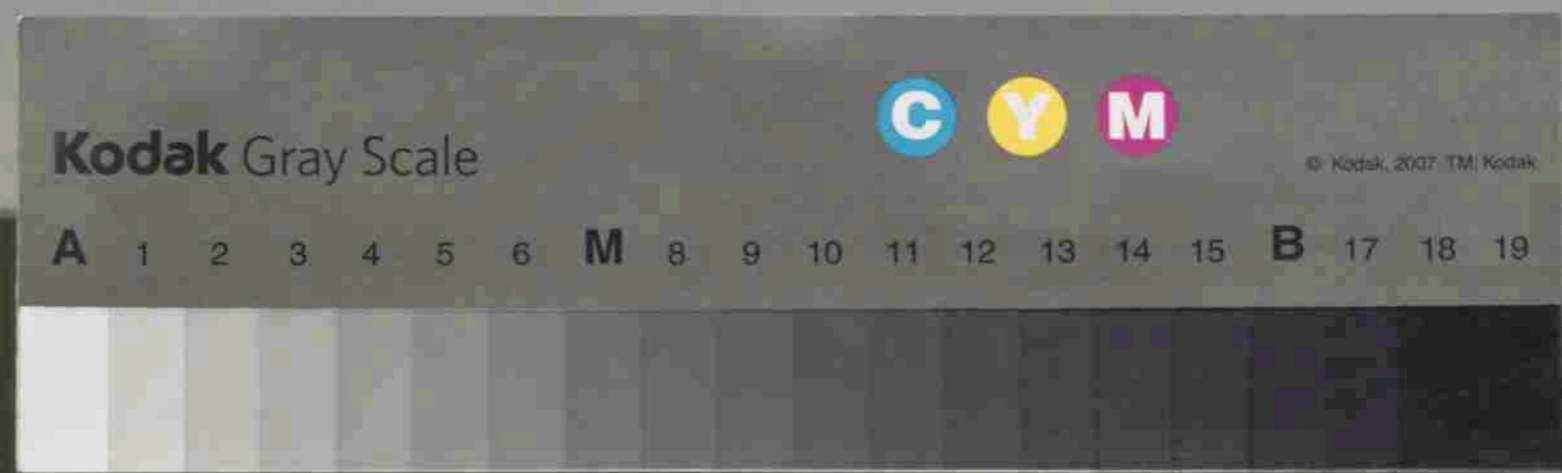
農區長 督勵委員 同時改選ス  
明治四十三年七月ヨリ 技術委員ヲ改メ産米検査員

伊谷野喜志  
寺内栄次  
高野多市  
平野忠吾  
小保方喜一  
鈴木傳吉  
萩野谷儀市  
若林國三郎

技術員 平野忠吾  
書記 小保方喜一  
農區長 鈴木傳吉

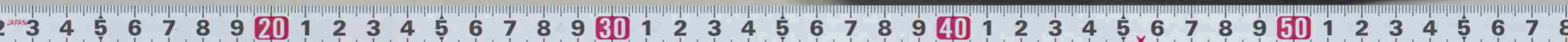
督勵委員各字ニ四人ヲ置テ  
名譽會員 塩沢次郎太郎  
平野 要  
関口光三九

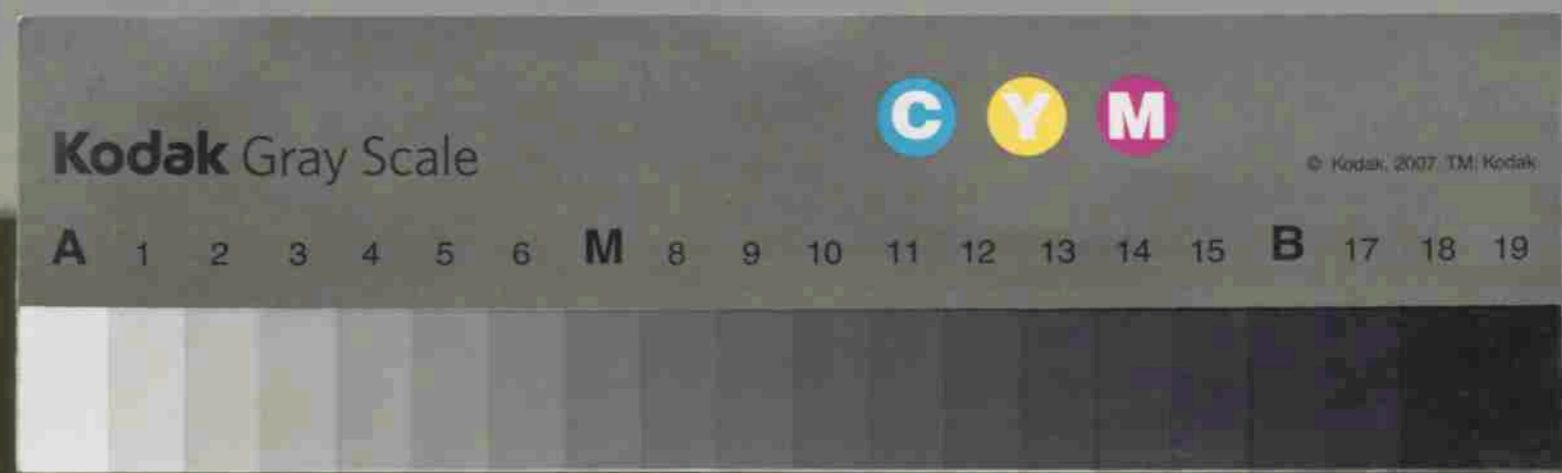
本所農會ハ昭和三十八年十月



第三章 郷土、沿革  
 第一節 口碑傳説 偉人豪傑  
 小倉川ニ就テ、口碑  
 諏訪城時代ニ於テ皆川ノ臣下ニ小倉某主膳ナルモノ  
 アリ勇敢ニシテ克ク戦ヒ適々宇都宮戸田ノ軍勢  
 本村ノ城ヲ攻撃スルニ當リ降雨アリ河水汎  
 濫ス某主膳勇ヲ鼓シテ宇都宮勢ヲ撃退シ偉  
 勲ヲ奏セシヨリ小倉川ト名称スト云フ此以前於  
 テハ清瀬川ト云ヘシトカ(皆川戦記ニヨル)

トス  
 明治四十四年四月ニ役員改選  
 石川介三  
 會長 金田慶次  
 副會長 宇塚半十郎  
 郡農會代表者ヲ郡農會議員ト改メ正副二人ヲ置ク  
 評議員 七人  
 農區長 三人  
 督勵委員 十二人  
 農會幹事 二人

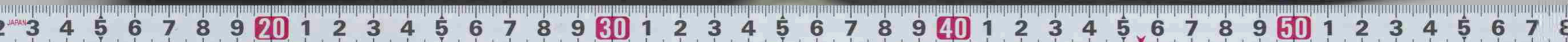


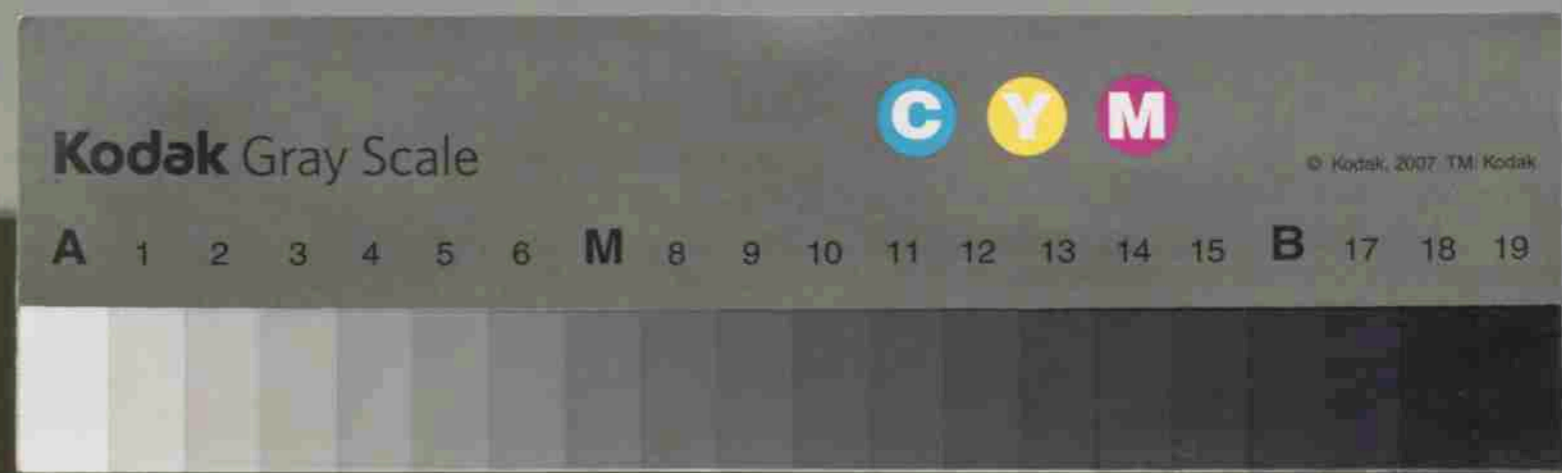


第二節 古蹟 古史古文書ノ調査  
 一 古蹟  
 澤程ニ諏訪城ノ城蹟アリ、宇都宮忠綱ノ銘有ニテ  
 永正二年皆川宗成子成勝ノ為ニ存留シ、天正三年  
 是初官國綱恢後リ、岡リテ、景徳六年、至リテ再  
 岸報後リ、ハカリタリ、詳細ハ分ニテ、大正ノ沿革  
 中久野ノ名ニ記セリ

清洲第一小學校

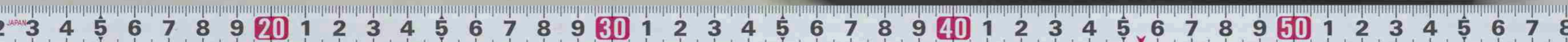
第三節 古蹟 古史古文書ノ調査  
 一 古蹟  
 澤程ニ諏訪城ノ城蹟アリ、宇都宮忠綱ノ銘有ニテ  
 永正二年皆川宗成子成勝ノ為ニ存留シ、天正三年  
 是初官國綱恢後リ、岡リテ、景徳六年、至リテ再  
 岸報後リ、ハカリタリ、詳細ハ分ニテ、大正ノ沿革  
 中久野ノ名ニ記セリ

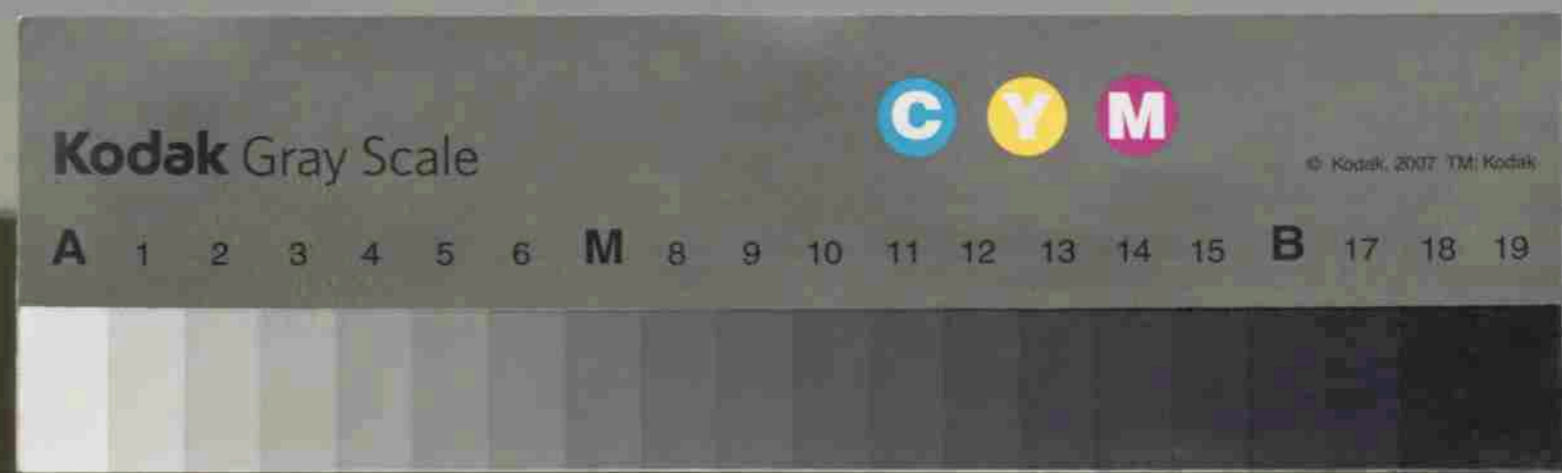




二古文書  
 慶安二年六月四日 半田西方野境裁許字  
 (紀元二三九年)  
 下野國王生領半田村と西方領野境并川論事  
 見分以遂穿數金半田西方之野境小倉川切  
 申付小川之儀と日影測分あつて測長代測迄  
 八為御留川之間可為如先規半田深程野  
 境之儀と大鷲川切申付小川自今以後不可  
 有違乱為其双方江証文下道也  
 慶安二年六月四日  
 勘左衛門印  
 次郎右衛門印  
 與兵衛印  
 半左衛門印

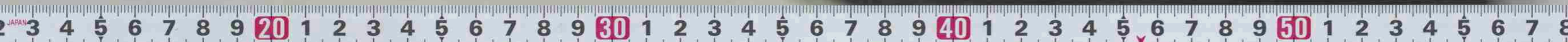
半田西方野境裁許字  
 下野國王生領半田村と西方領野境并川論事  
 見分以遂穿數金半田西方之野境小倉川切  
 申付小川之儀と日影測分あつて測長代測迄  
 八為御留川之間可為如先規半田深程野  
 境之儀と大鷲川切申付小川自今以後不可  
 有違乱為其双方江証文下道也  
 慶安二年六月四日  
 勘左衛門印  
 次郎右衛門印  
 與兵衛印  
 半左衛門印



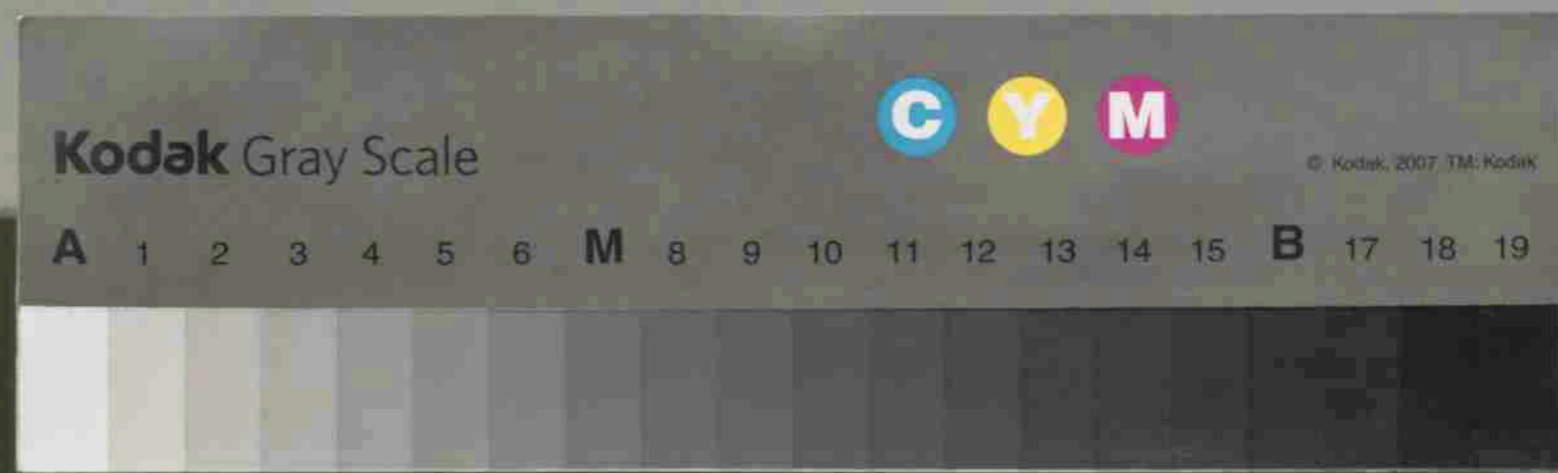
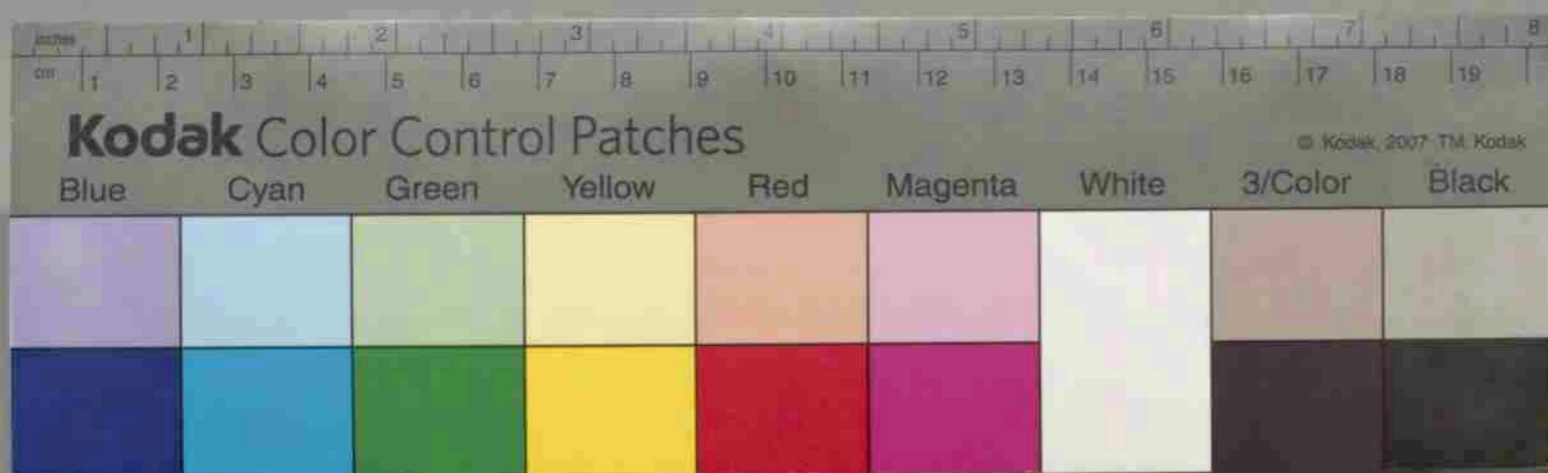


第二節 古蹟 古史 古文書 調査  
 三浦志摩守殿御知行所下野國榑木領之内  
 謹申上目安之事  
 三浦但馬守殿御知行所下野國榑木領之内  
 深程村、先規、久野村、雲叟寺、旦那分、  
 儀々度々宗、（虫、蝕）之時、分曹洞宗之手形御  
 公儀、様江指上、雲叟寺、旦那給無御座、（處）深  
 程村、名主九右衛門、（と）申者、同村無量壽院  
（と）申、（と）眞言宗、（と）致一味、種々謀計、（と）以度々、旦那  
 出入出来仕、（と）右又何共迷惑仕、（と）其意趣者

前書裁許、證文、深程村所持之方、致焼失、  
 付新、（と）該方所持之方、（と）以寫之、（と）令奥書、（と）下置  
 也  
 天明六年九月五日  
 新藏印  
 越前印  
 半田村  
 名主百姓中



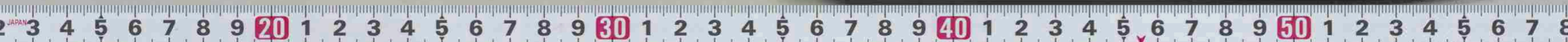


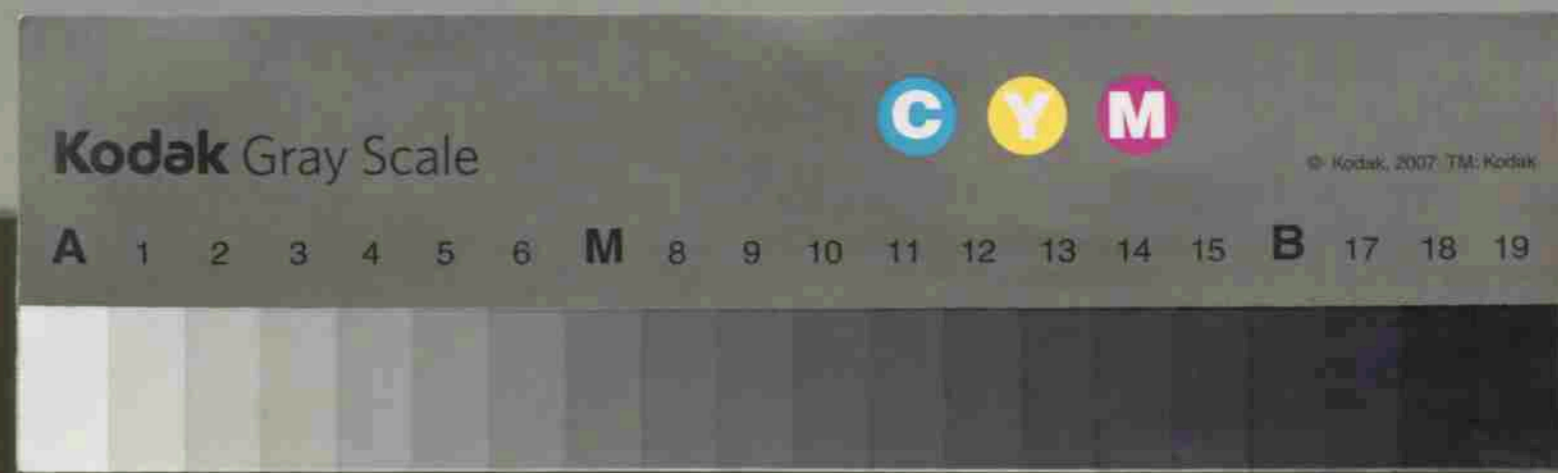


汰不仕付使申一八角右衛門返事。私儀  
 云叟寺且那。而御座間雲叟寺。取置也  
 可申由申得者九右衛門無量壽院。取置也  
 由拙僧方申越加様之儀何共迷惑仕事  
 一近年九右衛門謀計。以無量壽院。且那出入度  
 々御座付去已。年壬生代官瀧野四郎右衛門  
 方返申達堅手配仕埒明申。又。我儘  
 仕。故午。年志摩守殿。年寄申。越祈訟申  
 付古志摩守殿。御入部。以来度々。宗。自。改。被  
 申付。刻。證。文。を。以。被。遂。吟。味。急。度。可。被。申。付  
 處。九右衛門段。私由仕致迷惑。申。自。今

當三月深程村仁兵衛。年者。親相果申。彼  
 仁兵衛雲叟寺。且那。故拙僧。取置申。様。と  
 申越。間拙僧罷出。得。無量壽院。罷出  
 由。拙僧。取置也。申。間。敷。由。被。申。得。共。無  
 儀。申。故。無。構。取。置。可。申。存。申。同。村。年。寄  
 百姓。共。申。者。先。兩。寺。共。罷。歸。申。無。左。申。無  
 量壽院。方。大事。出来。可。申。旨。申。付。無。是。非  
 罷。歸。申。加。様。之。狼。藉。成。儀。迷。惑。仕。御。事

一當春深程村作右衛門。申者。女房。相果申。申  
 其後。又。六月。角。右。衛。門。申。者。女。房。果。申。申。彼  
 兩人。之。者。共。雲。叟。寺。且。那。而。御。座。申。得。共。何。共。沙





以後雲叟寺且那分少も相違させ申間敷に間比  
 度儀御赦免被成下り様ニと村中惣百姓連判  
 之手形任壬生町年寄共と以四郎右衛門方迄  
 指上様々新訟仕り付我儘成儀仕り可為曲事  
 旨被申付免し申り故曰冬迄何し申り合民無  
 御座り處處當春ニ罷成又色々理不盡成儀仕り  
 事ハ去年秋中於三浦但馬守殿家来衆仕  
 配ニ而替目ニ御座り故如様之狼藉成儀仕り  
 おと存迷惑仕り御事  
 右條々深程村無量壽院名主九右衛門被召  
 出御穿敷屋之上急度罷仰付被下り可為大  
 慈大悲に猶御尋上可申上り仍如件

野州都賀郡久野村

明暦三年酉霜月

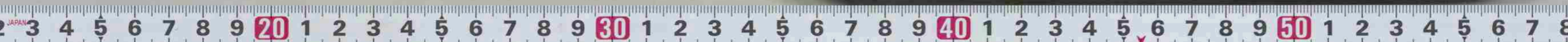
雲叟寺

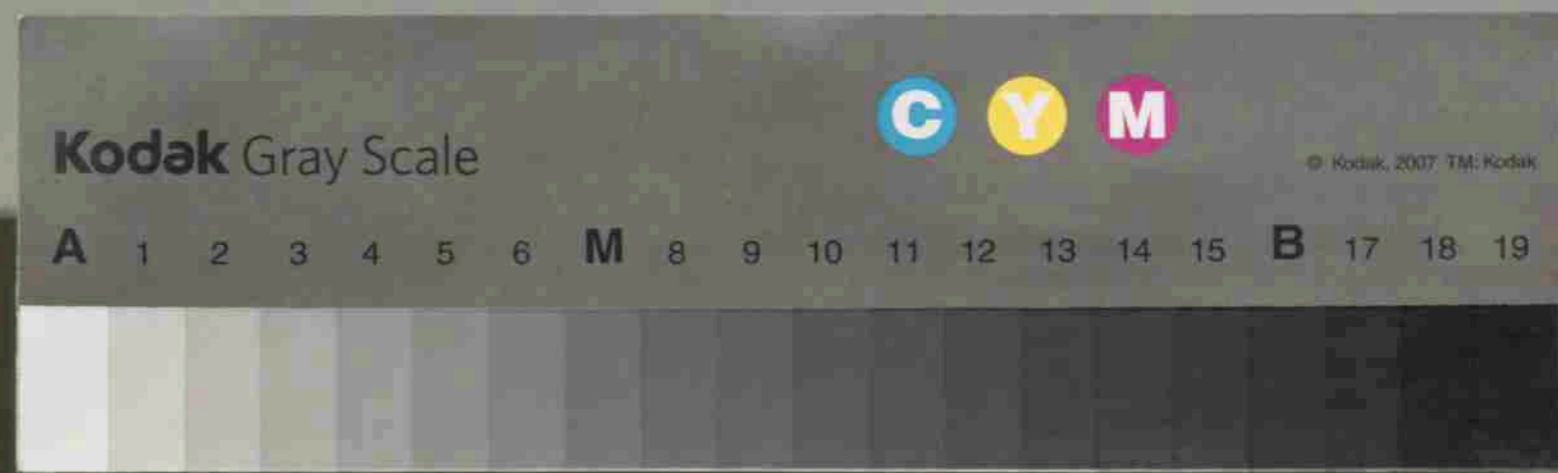
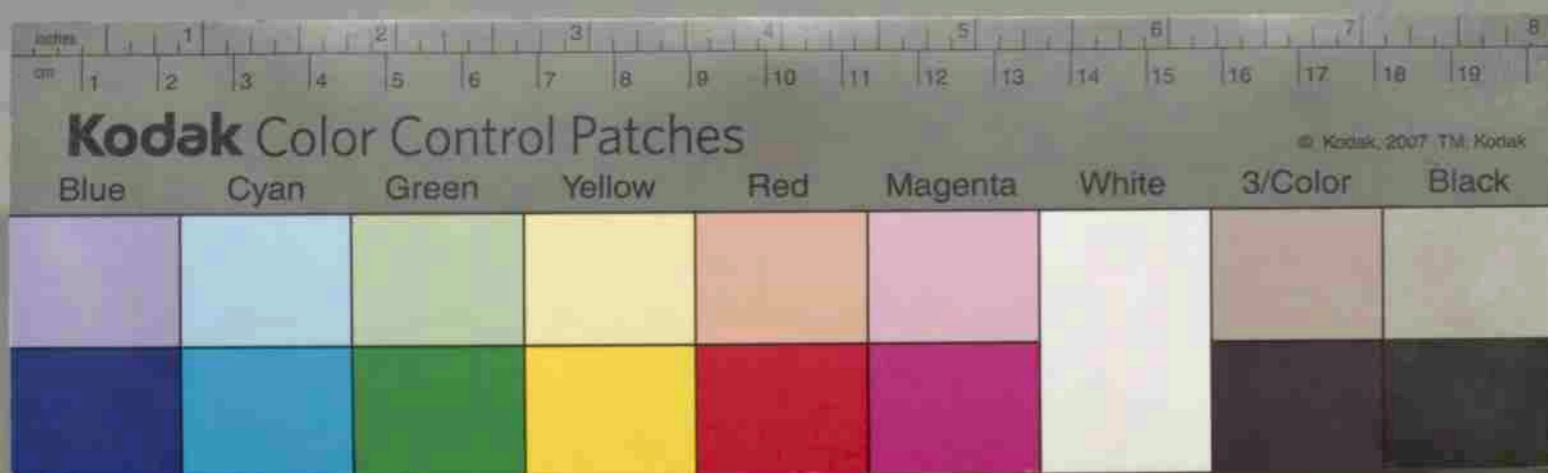
御奉行所様

(生出藤二郎氏所藏)

編者曰ク雲叟寺ハ元和二年辰年十月八日ナリト  
 傳フレドモ該所伏ハ明暦三年酉霜月トアレバ元  
 和ヲ去ルト僅カニ四十二年ナレバ雲叟寺ノ開創ハ  
 元和以前ナラント推定ス

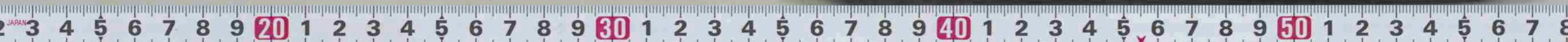
又曰ク無量壽院ハ元禄ノ頃ノ開創ナラントノ  
 説ナリシガ該所伏ニ據レバ明暦年度ニ已ニ無

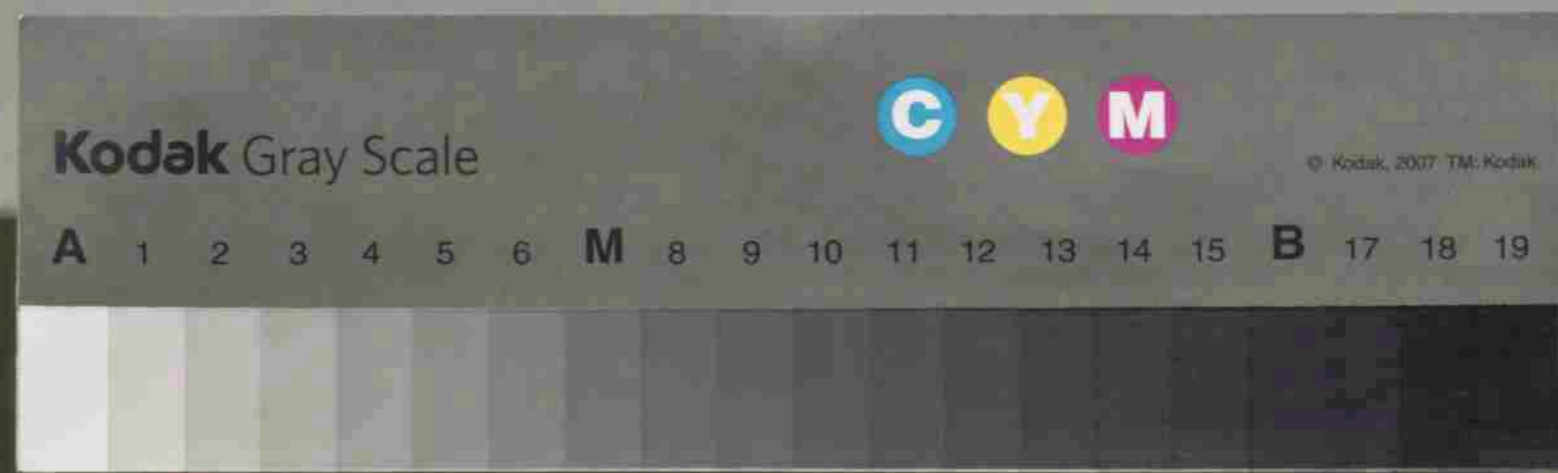




半田村と榆木町と山境論裁許(繪圖裏書)  
紀元二三四七年  
塩澤次郎太郎氏所藏  
 下野國都賀郡榆木町北同郡半田村山境論  
 之事榆木町百姓申旨ハ山原境之儀東ハ壁屋  
 澤兩村田地境ヨリ草蒲沢峯之掘切西ヨリ百  
 足沢ヨリ下り半田村畑際ニ隨ハ牛ヶ首大足川  
 之峯迄徒先規兩村境相立候處今般半田  
 村之者新規ニ境ヲ立為半田村地内段申捺  
 由訴之半田村ノ者答候ト前々兩村之境東ト  
 壁屋沢山根ト北之方十石ヶ窪之沃合ニ至リ  
 其ト三ヶ石峠立石山之峯大足川之峯迄境

量壽院アリ明曆三年ハ今明治四十四年ヲ  
 去ルコト二百五十五年ナレバ用創ハ其トヲ途カニ  
 以前ノモノナラン



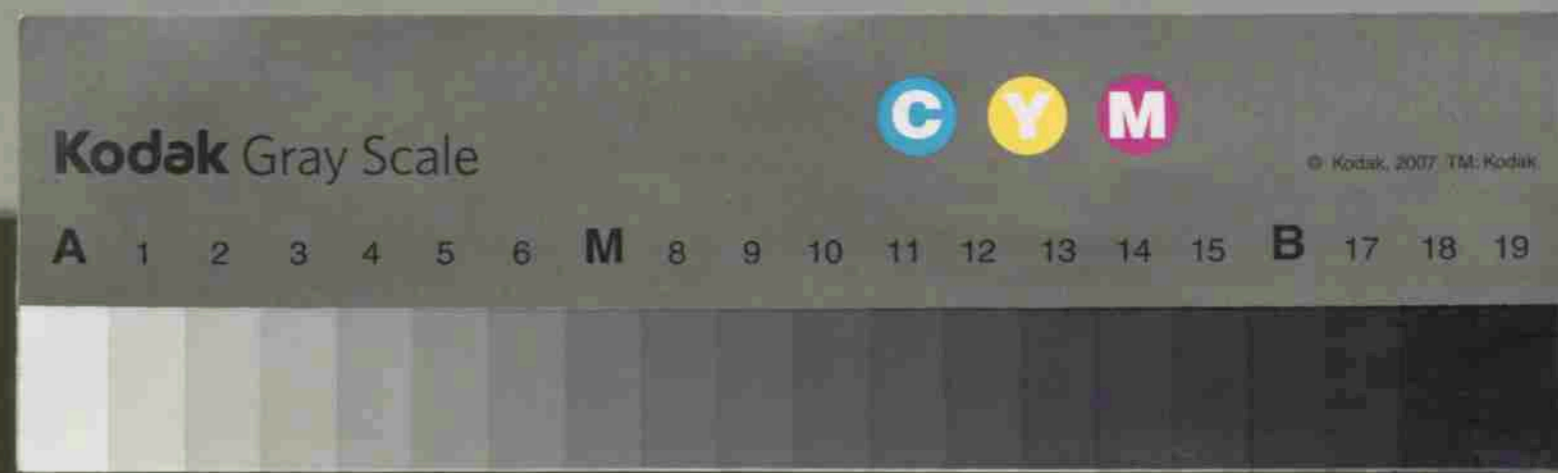


備考該繪圖面塩沢次郎太郎氏に所蔵して之を照して  
記入

酒	大	戸	米	甲	北	佐	小
				斐	六	右	伴
				羽	右	衛	右
				能	衛	門	衛
				登	門		門
				安			
				藝			
				河			
				内			

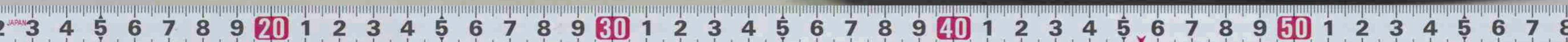
貞享四年丁卯九月廿五日

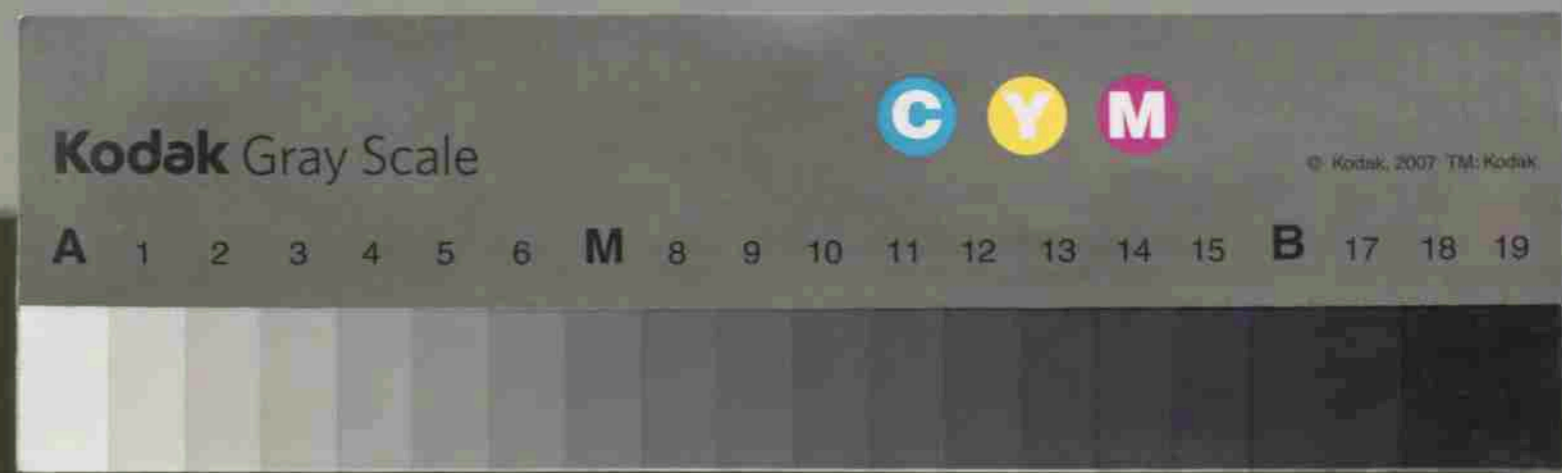
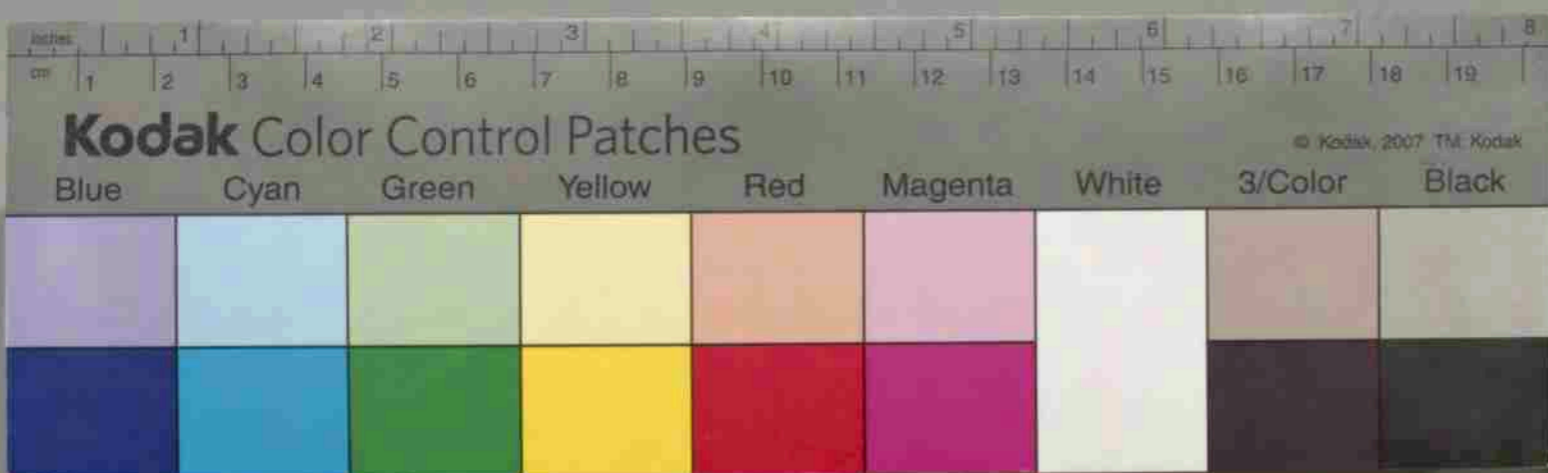
相極候即ち三石峠之下に半田村百姓支配之荒田  
荒畑十ヶ所有之水帳に記置候由申之遂に明處  
双方申置候山境證據一圓不正依之今度詮  
議之上各令了簡東に壁屋沢西村地境より  
菅浦沢之峯通り北之方三石峠五石山を下り  
大足川之端迄兩村境相定間向後峯より西  
南に可為半田村之山峯より東北に可為楠木  
町之山仍為後證據繪圖之面川墨土筋加印判  
双方以下置候間不可違犯者也



光祿三年己丑久野深程少原出入  
(銘名二三五〇年)  
 乍恐次書付御新詔申上候御事  
 市川孫右王門御代官所  
 下野國都賀郡三浦越中守知行所  
 本多孫兵衛知行所  
 深程村  
 名主 瀨兵衛  
 名主 半右衛門  
 山原之出入  
 年寄

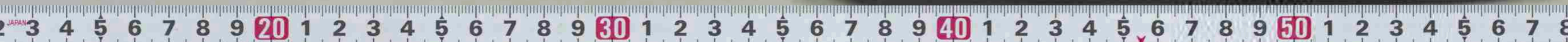
*[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns, possibly bleed-through from the reverse side.]*

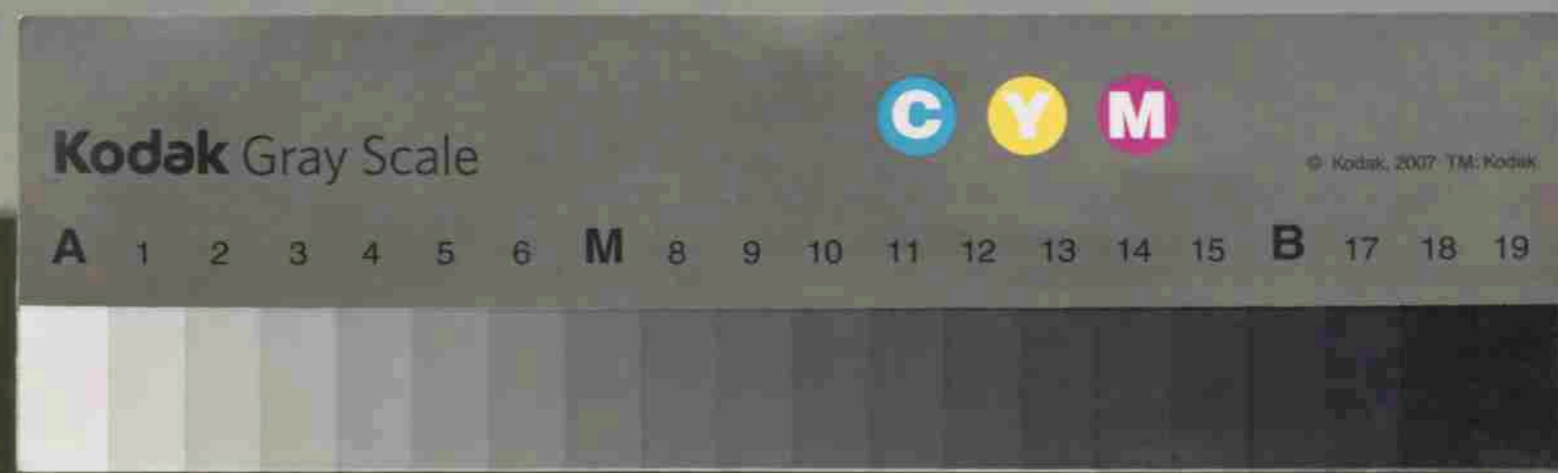
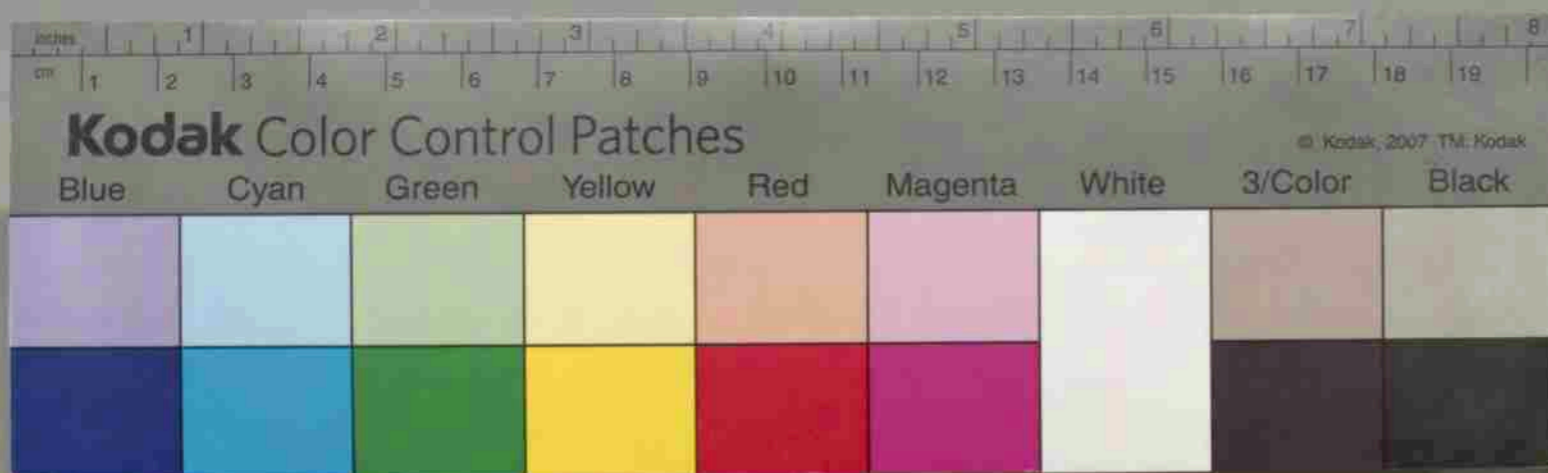




刈散我儘仕久野村少在構申場所  
 無御座の御事  
 一深程村の儀先規の城山御地頭立山物野  
 山小松山本多彌兵衛御知行石高之御  
 新領被成御拜領村々札銭薪為取來  
 札御年貢上納仕深程村百姓等申  
 野銭是又石高之入兩御地頭以上納仕依之  
 百姓居林立野草刈場是御座久野  
 村と深程村境東御立山北廻り西百合  
 草入之峯瀧入ぬが入迄峯切柴流  
 北おちの沢峯を下り角端迄更岩之入峯  
 切柏木立山境沢下り柏木之畑峯迄御

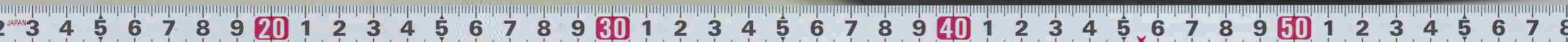
同國同郡三浦臺以守掃御知行所  
 惣百姓  
 久野村  
 名主  
 傳右衛門  
 年寄  
 庄兵衛  
 相手  
 一深程村向原と申所先年串由村と公事仕  
 御公儀様御禮文被下置其上古畑新  
 畑水帳割付等證據儘御座候久野村  
 入會之野場苗去々年夜中一度々耕作

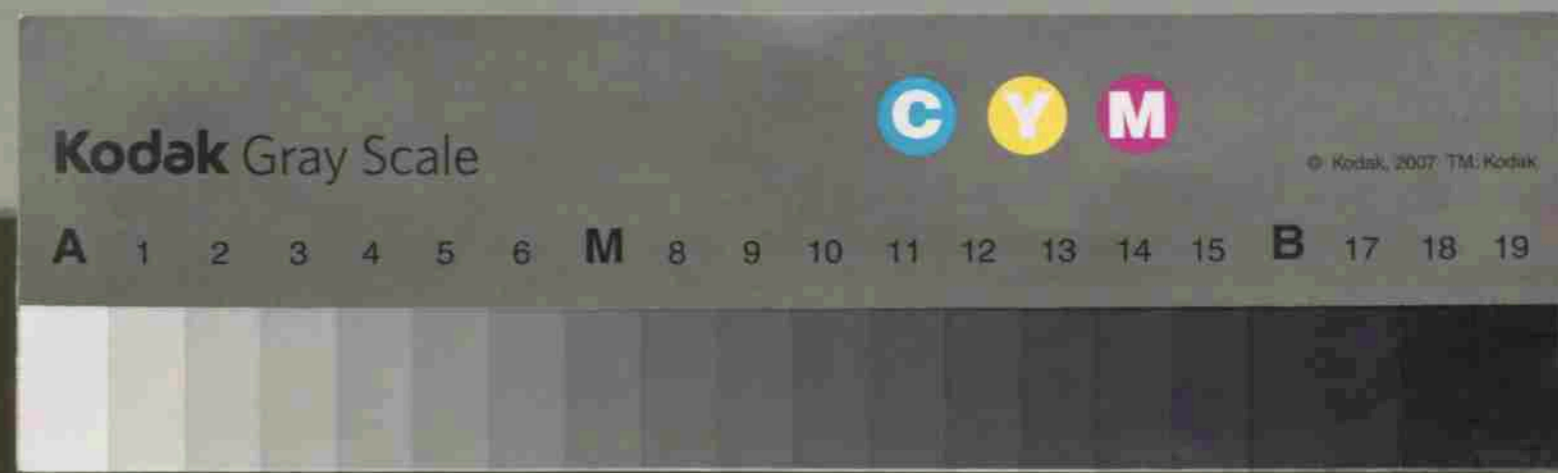
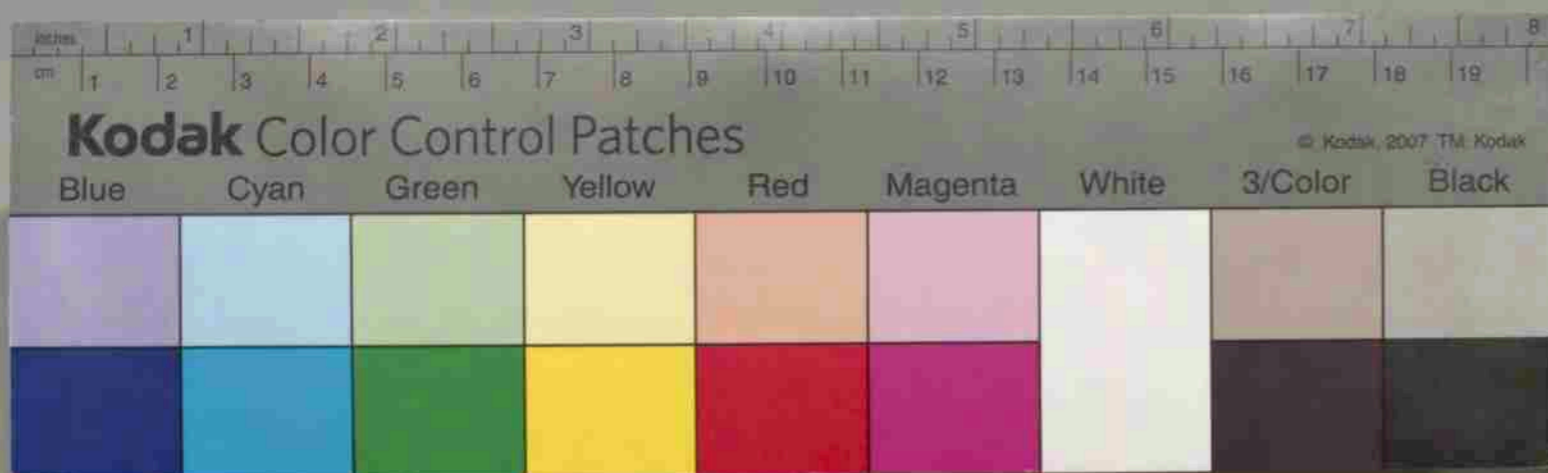




申の共置岐守様片越中の守彌兵衛御  
 一月中御座の故遠御座被成小間御新詔  
 進拜仕の前々通久野柏木立出之山々木  
 草取場被御付可被下の御事  
 右御新詔可申上存置夏中罷登の度  
 御地頭方御忌中故延引仕出立野  
 向の中古来の深程内山百姓島山御  
 座の度當方有久野村の徒置立多勢  
 之罷越カ列取申付山本百姓相改  
 之頃大勢散々被改打擲半死半生  
 罷成の故迷惑心仕又々同月八日罷登御  
 公儀様の御新詔可申上起御地頭忌心

立山先規の境相極小也久野村の境の  
 峯と越大勢徒置立柏木に入我儘  
 仕小先規の道深程村御柏山久野村  
 入不申様被御付可被下の御事  
 右御柏山の内柴の沢申所を久野村の去  
 卯の五月十日我儘沢口を切留柏馬不由故  
 其年の柏録上納不能成小間久野村出申  
 様置置岐守様御役人衆申上の得共予  
 今埒明不申の御事  
 久野柏木村の野山御柏木深程村の百  
 姓の薪取束の起久野村柏木の百姓并  
 雲叟寺入分新立山仕の付立申中間敷由





御奉行様

元禄三年九月

半右衛門印  
五兵衛印  
惣百姓印

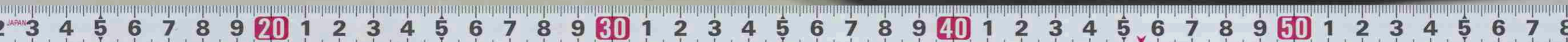
明山原落葉仕込波山久野村占入不申  
小様、兩御地頭役人衆、彦彦岐身様御  
破人中、被仰在、故罷歸、然處、廿八月  
七日、次東大人敷、度々棒録、持罷越  
か、如判、取我信仕、向其津、惑仕、御事、  
右之條、被仰召、久野村者、共被召出  
前々之通り、立出之山々木、草取場、仕深程  
村御礼山、入石申、小様、被為御、被下、  
ハ、難有可奉存候

已上

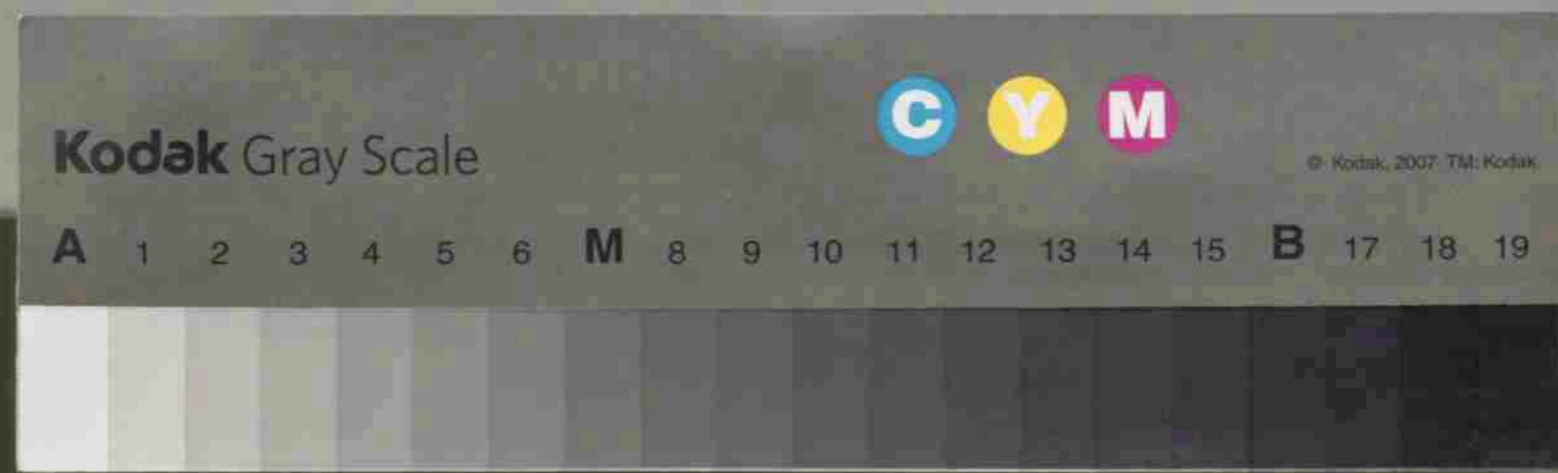
深程村

瀬兵衛

印

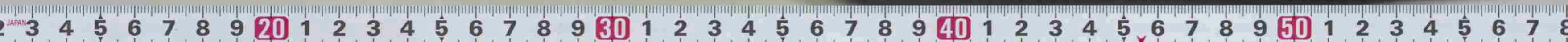


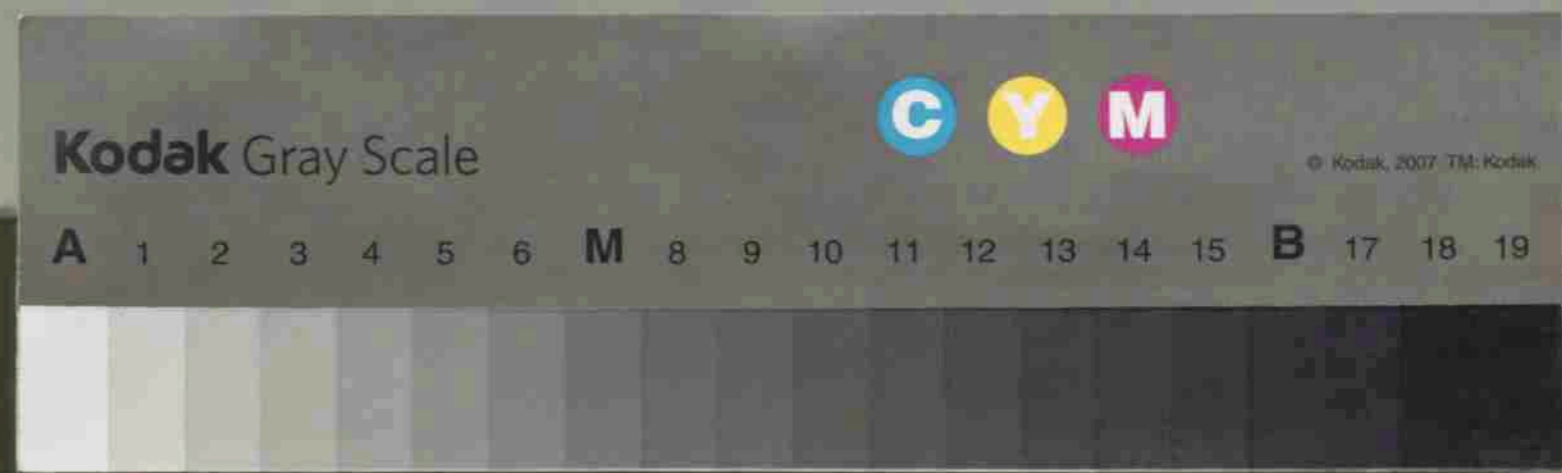
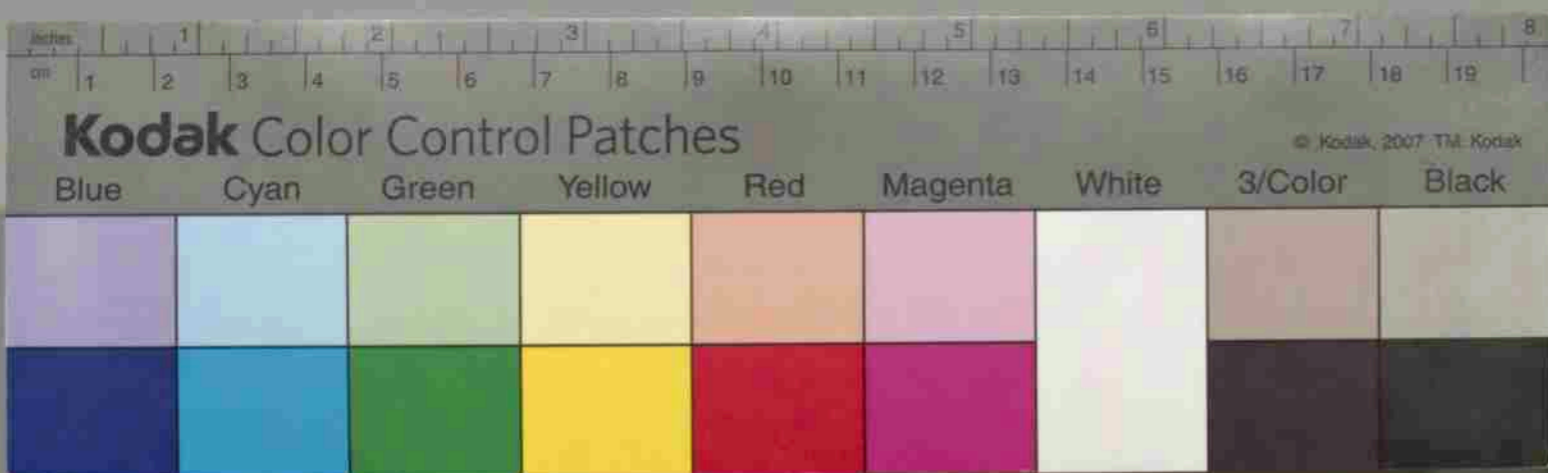




正徳五年三月中仙道金崎町増助御伴  
 (紀元二三五七年)宇塚定十郎氏所藏  
 乍恐以書附を御祈訟申上御事  
 下野國都賀郡課程村儀去ル己年寅寅榆木  
 町一定助被爲仰付奉以今相勤殊比度御  
 法事付榆木先達而相觸申間人馬  
 小屋掛近仕然所中仙道人金崎町江茂  
 増助卿被仰付間相勤様ニ申来兩  
 宿江人馬不足而迷惑仕付兩町江申  
 合得十鬼角御窺可然由申以御慈悲  
 一宿江相勤申様被仰付下下難有奉  
 存以上

正徳五年三月中仙道金崎町増助御伴  
 (紀元二三五七年)宇塚定十郎氏所藏  
 乍恐以書附を御祈訟申上御事  
 下野國都賀郡課程村儀去ル己年寅寅榆木  
 町一定助被爲仰付奉以今相勤殊比度御  
 法事付榆木先達而相觸申間人馬  
 小屋掛近仕然所中仙道人金崎町江茂  
 増助卿被仰付間相勤様ニ申来兩  
 宿江人馬不足而迷惑仕付兩町江申  
 合得十鬼角御窺可然由申以御慈悲  
 一宿江相勤申様被仰付下下難有奉  
 存以上

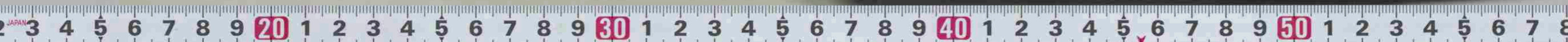


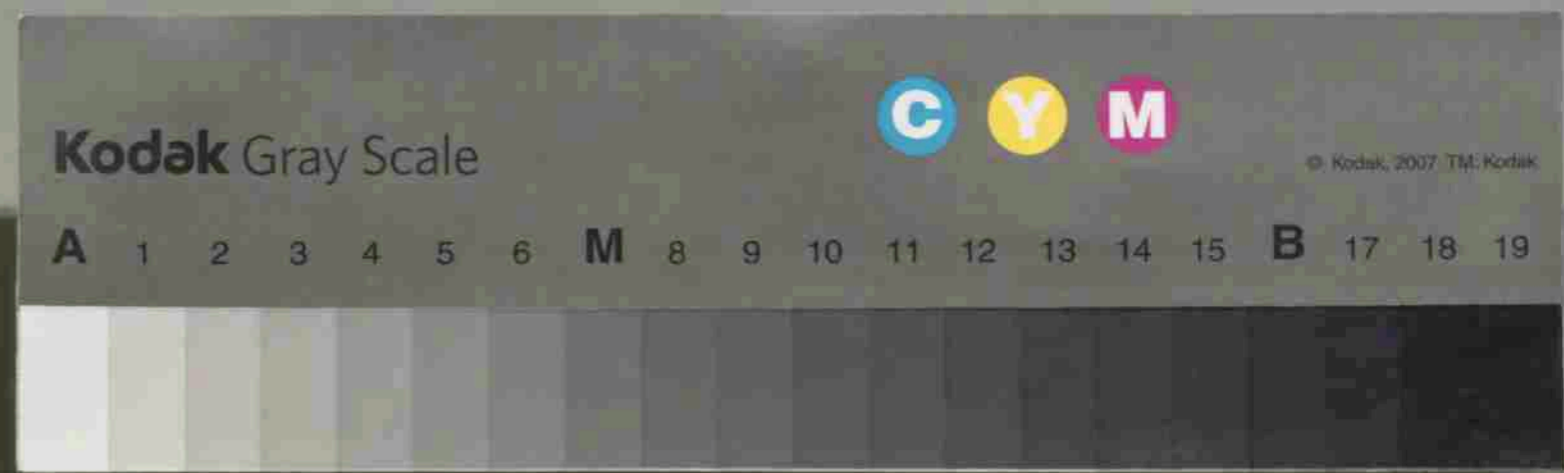
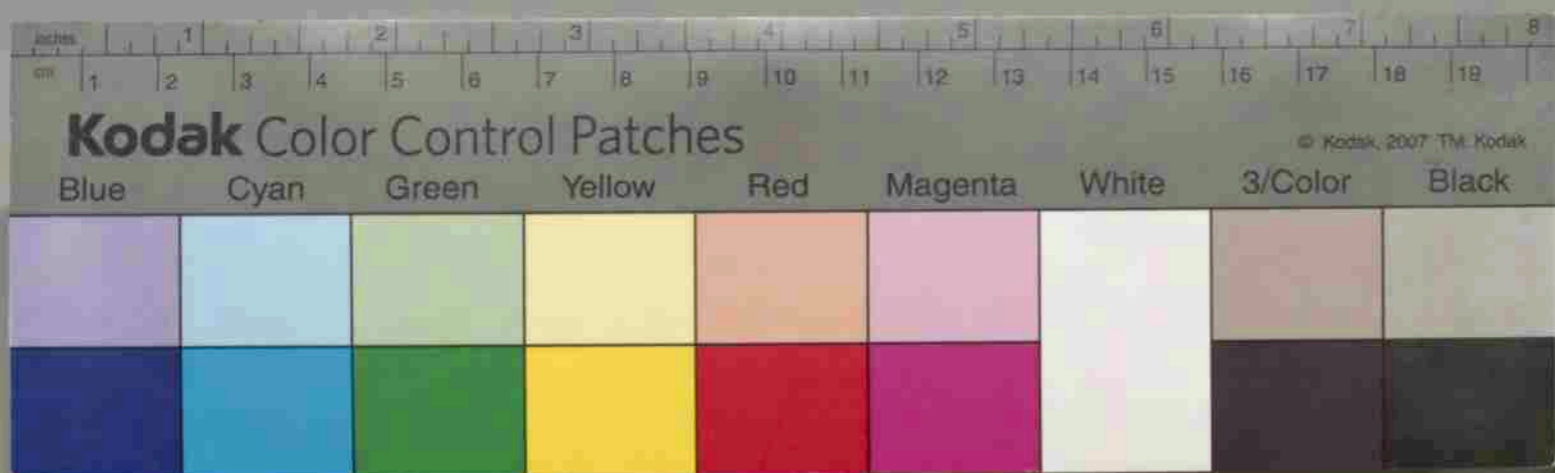


(裁許繪圖ノ裏書キルニシテ) (紀元二三五年)  
 下野國都賀郡久野村と深程村野山論佐目村  
 深程村野論油田村と佐目村深程村野論半  
 田村と油田村河原論裁許之條々  
 一深程村久野村野山論之事深程村百姓新趣  
 此度之論山元未境相立各々、秣新刈取候然久  
 野村之者境無之入會之由申掠以旨申之久野村  
 百姓各以久野深程兩村先規一村故境無之  
 為入會之由申之遂亂明久野村百姓差出以  
 三地頭之證文之儀如先規可為入會旨載之然  
 則深程村百姓所新難立間向後彌兩村可為入會  
 但地頭立山百姓居山ハ除之畢次ニ向原野論儀

小書及平氏所託

下野國都賀郡深程村  
 三浦肥後守知行所  
 正德五年末三月 名主 沖之助(印)  
 今所  
 本多弥兵衛知行所  
 名主 瀬兵衛(印)  
 御奉行所様

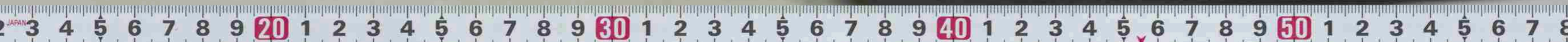


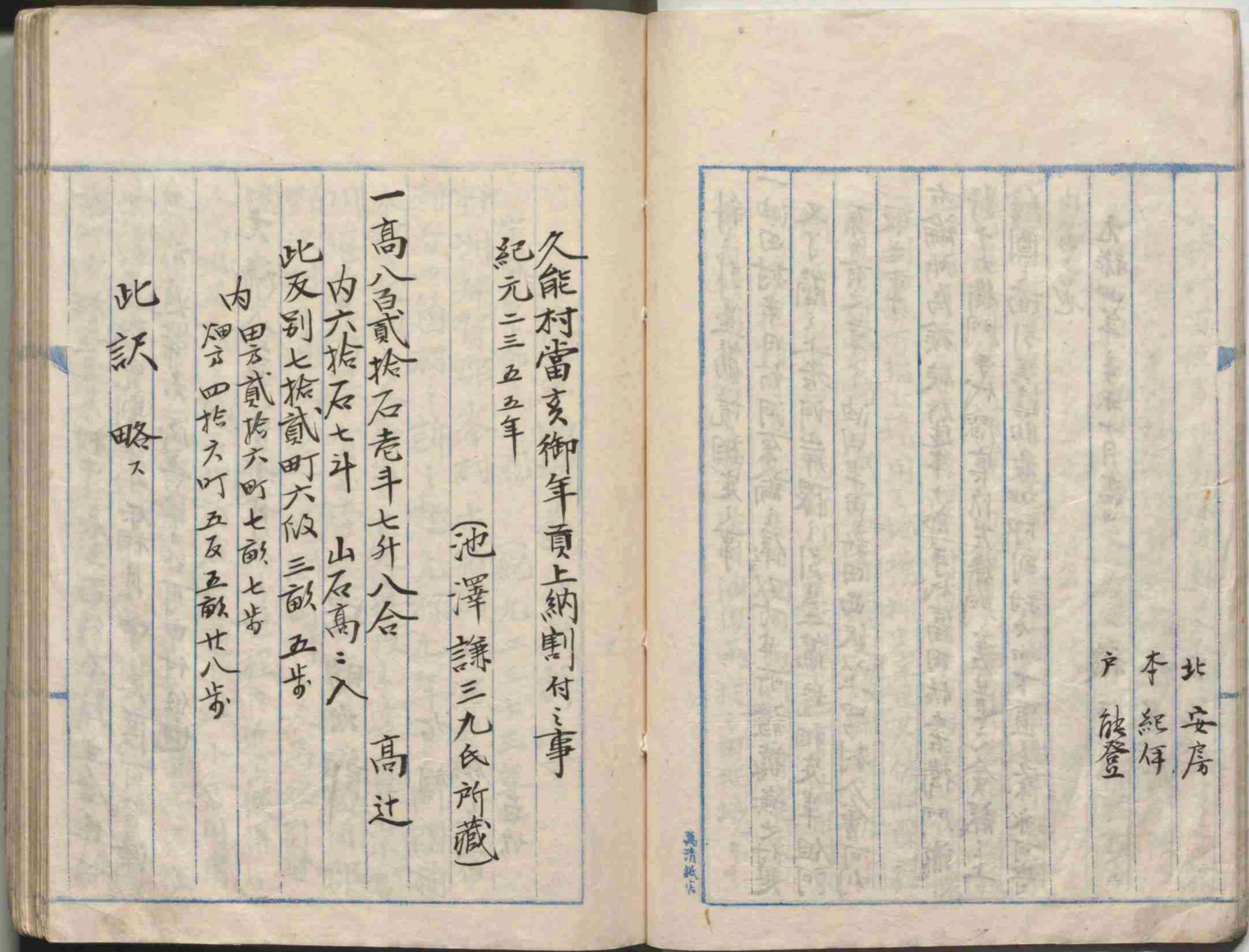
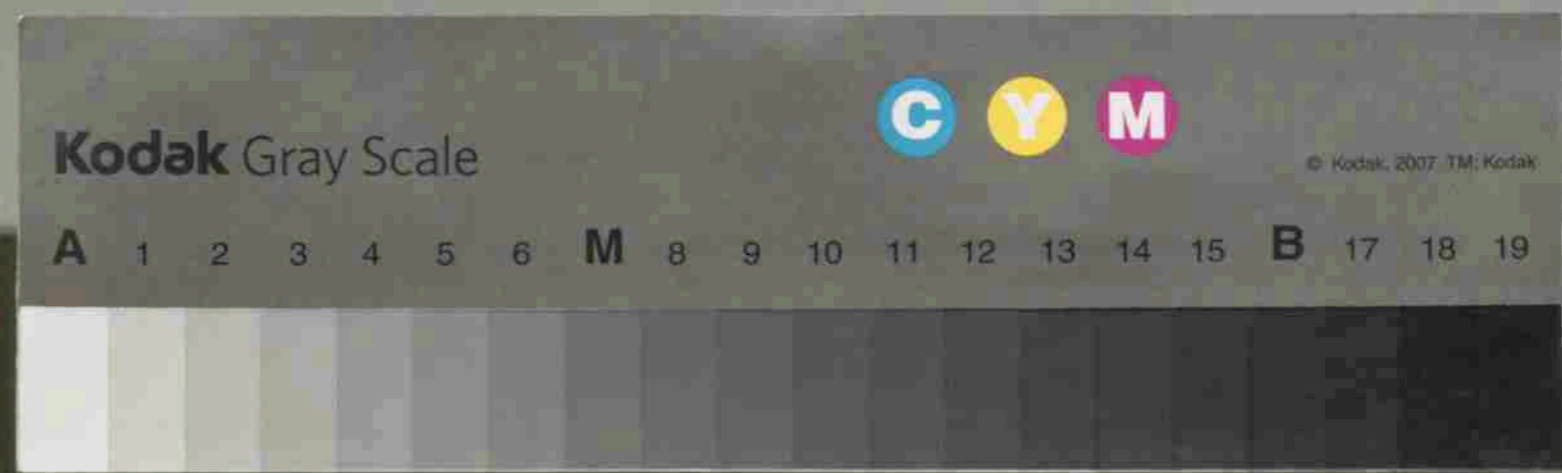
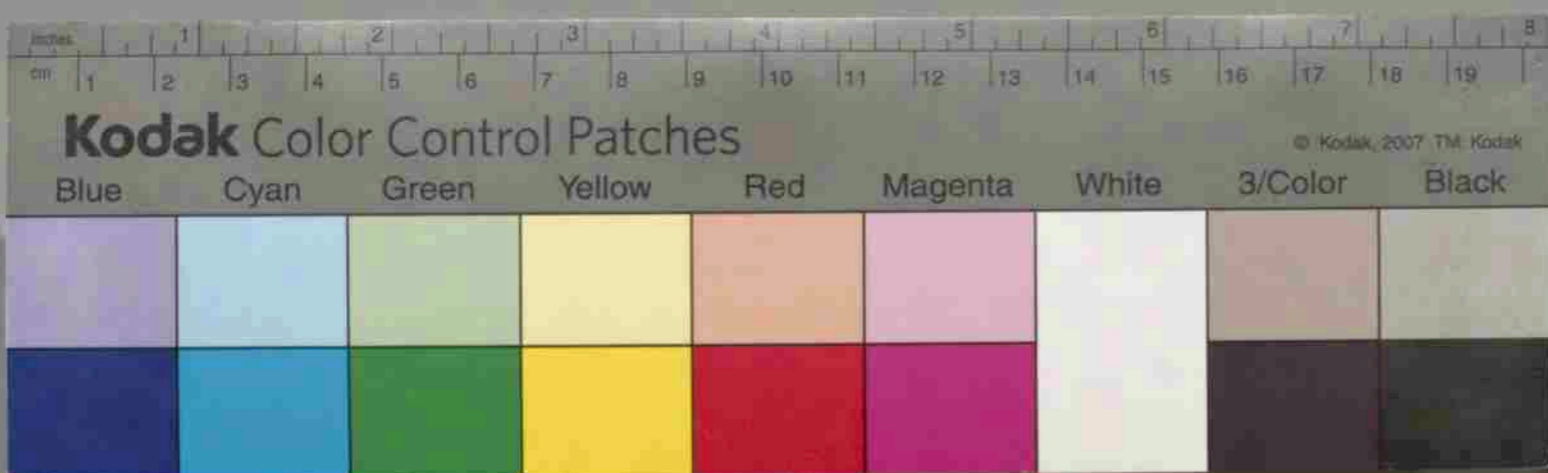


久野村百姓申以者深程村と入會之由雖申之四拾  
 三年前半田村深程村野論之時大足川ヲ限リ  
 為深程村之地由古證文之有之上可為深程村之  
 地事  
 一佐目村深程村地境論之儀佐目村百姓申以粟  
 野道之隨佐目村境之由雖申之粟野道之此深程  
 村之畑并民屋有之條深程村百姓申以理運也依是深  
 程村百姓所指之境用之地境相定畢且又佐目深程  
 油田之村野論之儀各年所證文證跡無之仍了  
 簡之上佐目深程之境新川之中央限之西方之佐目村東  
 方は深程村可支配之佐目油田兩村之野境東之  
 半田村用水堰之西之佐目油田兩村之田地境之

萬清越林

斜ニ引墨筋境相定之事  
 一油田村半田村河原論之儀双方申所證據無之付是  
 又了簡之上右河岸限之引墨筋境相定畢但河  
 原之有之草之油田半田新田西沢以上四村入會可川  
 取之事  
 右論所為換使有遂半十郎手代富田佐立右衛門瀧  
 野十右衛門手代間宮治左衛門差遣之合議之上  
 繪圖之面引墨筋各加印判村々之下置之糸永可守  
 此旨者也  
 元祿四年辛未十月十四日  
 稻伴賀  
 松美濃  
 能出雲





久能村當亥御年貢上納割付之事  
紀元二三五五年

(池澤謙三九氏所藏)

一高八百貳拾石老斗七升八合 高辻

内六拾石七斗 山石高三入

此反別七拾貳町六畝三畝五步

内田百貳拾六町七畝七步

畑百四拾六町五反五畝廿八步

此訣 略不

北安房  
本紀輝  
戸能登

萬清紙店